

令和2年8月 教育委員会臨時会会議録

1 開会の日時

令和2年8月6日（木） 午前9時30分

2 出席委員

新 倉 聡 教育長  
荒 川 由美子 委員（教育長職務代理者）  
川 邊 幹 男 委員  
元 木 誠 委員

3 出席説明員

教育総務部長	佐々木 暢 行
教育総務部総務課長	夏 目 久 也
学校教育部長	米 持 正 伸
学校教育部教育指導課長	高 橋 直 樹
学校教育部支援教育課長	富 澤 真由美
学校教育部保健体育課長	山 崎 亨
教育研究所長	阿 部 優 子
教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長	小 番 奈緒美
教科用図書採択検討委員会高等学校専門部会長	伊 藤 学
教科用図書採択検討委員会特別支援教育専門部会長	村 野 茂
学校教育部教育指導課主査指導主事	新 谷 美 紀
学校教育部教育指導課主査指導主事	高 橋 あずみ
学校教育部教育指導課主査指導主事	小日向 真
学校教育部教育指導課指導主事	堀 井 真
学校教育部教育指導課指導主事	黒 澤 正 道
学校教育部教育指導課指導主事	萩 原 幸 太
学校教育部教育指導課指導主事	直 島 和 也
学校教育部教育指導課指導主事	宍 戸 良 子
学校教育部支援教育課指導主事	三 浦 千 夏
学校教育部保健体育課指導主事	岸 洋 平

4 傍聴人 10名超

5 議題及び議事の概要

- 教育長 開会を宣言
- 教育長 澤田委員から欠席する旨の報告があったことを報告した。
- 教育長 本日の会議録署名人に川邊委員を指名した。

(新倉教育長)

本日、傍聴希望者が多数いらしており、抽せんに漏れた方に対し、音声のみを隣室に流したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

それでは、音声のみを隣室に流すことといたします。

本日の議事は教科用図書の採択であるため、関係部課長及び教科書採択検討委員会委員長、各部会長並びに関係指導主事が出席しております。

議案の審議に入ります前に、本日の教科用図書採択までの流れを確認したいと思います。

今年度は、中学校の全ての教科、高等学校、特別支援学校及び特別支援学級の採択替えの年になります。

各委員におかれましては、既に6月12日から6月26日に横須賀市教育研究所の横須賀地区教科書センターで実施された教科用図書展示会で教科用図書を閲覧していただいていることと思います。つきましては、本日の報告を尊重しつつも、各委員の権限と責任の下に厳正な採択をしていくことを改めて確認したいと思います。

続きまして、教育指導課長より採択基本方針の確認と採択事務全般の経過説明を受けたいと思います。

(教育指導課長)

令和3年度使用教科用図書の採択について、本日に至るまでの経過説明をさせていただきます。

令和2年4月23日の教育委員会定例会において、令和3年度使用教科用図書

の採択基本方針を決定いたしました。基本方針は次のとおりでございます。

教科用図書の採択に当たっては、1、公正かつ適正を期し、優れたものを採択する。2、児童生徒及び学校、その他の特性を考慮して採択する。3、教科用図書について、教科用図書採択検討委員会等の調査研究の結果を活用して採択する、の3点です。

5月22日には、教育委員会の諮問に応じ教科用図書の採択について検討し、答申をしていただく機関である教科用図書採択検討委員会の委員を委嘱し、同日に同検討委員会に対して令和3年度使用教科用図書に関する検討について諮問をしました。

次に、どのような形で教科用図書に関する検討、調査研究を行ったかについてご説明いたします。

本年度は、参考資料1にありますとおり、中学校、高等学校、特別支援学校・学級が採択替えとなりますので、検討委員会内にそれぞれの校種ごとに専門的に検討を行う専門部会を設置しました。また、調査研究、資料の作成、需要数の報告を行うため、教科用図書調査事務局、調査部会及び同事務部会を設置しました。調査事務局の設置後、約1か月あまりの間、文部科学省の教科用図書目録に記載された教科書の全てについて、多くの時間を費やし厳密に調査研究及び検討を行いました。

6月12日から26日までの間には、横須賀市教育研究所の横須賀地区教科書センターにおいて、市民の皆様にも公開する形で教科書展示会を開催し、606名の方が来場されました。こうした過程を経まして、最終的に令和3年度使用教科用図書についての検討結果を取りまとめるため、7月15日に2回目の検討委員会が開催されました。そこで答申内容が決定されました。これを受けまして、教育委員会事務局において本議案を作成したところであります。

なお、各教育委員の皆様には、各教科の比較検討結果等を事前にお手元にお届けし、それぞれの教科書の実情等をご検討いただいていたところでございます。

本日は、教科用図書採択検討委員会、小番委員長より、先ほど申し上げた経過を踏まえ、教科書採択についての説明がございます。ご質問等がありましたらいただきたいと思いますが、内容によりましては各担当等よりお答え申し上げたいと思っております。

また、高等学校については、新規に選定する科目の教科書、また特別支援教育に関しては、一部ではございますが一般図書を、中学校については全ての教科書を横に並べてございます。必要があればお申し付けいただきたいと思っております。

それでは、ご審議のほどよろしく願いいたします。

(質問なし)

(新倉教育長)

質問ないようですので、続いて採択の方法についてお話しさせていただきます。

各議案の審議に際しては、教科用図書採択検討委員会専門部会を設置している中学校、高等学校、特別支援教育につきましては、教科用図書採択検討委員会委員長または部会長より、検討の経過に対する説明を受けたいと思います。次に、提出された議案に対し、所管である教育指導課長が提案説明をいたします。そして、議案に掲げられた教科用図書の他に委員の皆様からの推薦がないかご意見を伺ったうえで、審議に入り、採択候補の決定を行っていきたいと思います。

採択候補の決定については、候補が2者以上の場合には、原則として教育委員会会議規則第17条の規定により無記名投票していただき、投票多数のものを採択候補として決定したいと思います。

なお、1位の投票数が同数となった場合は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第4項により、教育長の決するところとなります。候補が1者の場合には、各委員から異議がなければ、異議のない旨の確認を取ったうえで採択候補の決定としたいと思います。

採択替えがなく、教科用図書採択検討委員会専門部会を設置していない小学校につきましては、教育指導課長から議案の提案説明を受けて、審議を行いたいと思います。

なお、採択の決については、採択候補を決定した後に挙手により行いたいと思います。一括採択を行う場合で、委員の皆様から候補の推薦等がない場合には、採択候補の決定を行うことなく採択の決を採りたいと思います。

以上、本日の採択方法について、ご異議等ございませんでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、そのままに進めさせていただきます。

日程第1 議案第35号『令和3年度使用小学校教科用図書の採択について』

教育長 議題とすることを宣言

(教育指導課長)

議案第35号『令和3年度使用小学校教科用図書の採択について』ご説明いたします。

小学校教科用図書については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条及び同法施行令第15条の規定に基づき、採択替えが本年度はございませんので、小学校は令和2年度採択のものと同じのものを採択するものでございます。

採択する小学校教科用図書は、記載のとおりでございます。よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

(新倉教育長)

ただいまの説明にありましたように、小学校は令和2年度に採択替えをしておりますので、令和3年度に使用する教科用図書は令和2年度に採択したものと同一のものを採択することになります。

それでは、議案第35号についてご質問がございましたらお願いをいたします。

(質問なし)

討論なく、採決の結果、議案第35号は「総員挙手」をもって、原案どおり可決・確定する。

日程第2 議案第36号『令和3年度使用中学校教科用図書の採択について』

教育長 議題とすることを宣言

(新倉教育長)

審議に入る前に、教科用図書採択検討委員会委員長より、検討の経過に対する説明を求めたいと思います。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校の教科書採択につきまして、これまでの経緯をご説明いたします。本日に至るまで、採択検討委員会を2回実施いたしました。

第1回は5月22日に開催し、基本方針、調査方法の確認を行いました。中学

校においては、新学習指導要領の全面実施に伴う初の採択年度ということで、調査部会により全ての発行者について同一に、横須賀の生徒に最もふさわしい教科書を採択するため十分な調査を行い、作成された調査評価表と、事務部会から提出いただいた各学校の報告資料を基に、第2回採択検討委員会専門部会を7月15日に実施し、検討を行いました。

委員会は学識経験者、保護者代表、教育関係者を含め構成され、調査事務局による調査結果を慎重に審議し、7月15日の採択検討委員会で答申内容を決定し、本日に至っております。

(新倉教育長)

それでは、議案の説明をお願いいたします。

(教育指導課長)

調査事務局の調査部会及び事務部会において調査研究を行った資料を基に、採択検討委員会において検討、審議がなされました結果が、お手元にある採択候補案でございます。

よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

(新倉教育長)

中学校の教科用図書については、順次10教科16種目の教科書審議を行い、採択は全ての教科の審議終了後に一括して行いたいと思います。

それでは、まず国語の教科書から順次、採択候補の決定を行います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校国語は、発行者4者のうち三省堂と光村図書出版の2者を答申いたします。

理由は、三省堂は、自ら学習を進めるという点で特に優れたものがあります。生徒に分かりやすく、具体的にどのような取り組みをすればよいのかが明確であります。

光村図書出版は、3年間の系統的な学習が明確であり、学年に応じた適切で有効な取り組みが設定されています。また、生徒が理解しやすく、学びやすい作品が充実しています。

2者とも、全体の構成や配色も見やすく工夫されており、生徒が落ち着いて学習を進めるための工夫や配慮がなされております。

2者とも、横須賀の生徒に国語の力を育成するためにふさわしい教科書と判

断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

それでは、次に提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、国語については三省堂と光村図書を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明について、ご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、国語の教科書についてですが、教育指導課長から提案のありました2者の他に、委員の皆様の中で採択候補として審議したい教科書等がございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

ないようですので、国語の教科書について質問をお願いいたします。これらの候補本に関して何かご質問がございましたら、お願いをいたします。

(荒川委員)

では、私のほうから3点質問をさせていただきます。

まず1つ目なのですが、採択資料3ページの(ア)の観点です。光村には、自ら学習を進める工夫が特に優れているという記述があり、三省堂では総合評価で、自ら学習を進めるという点で特に優れたものがあるとの記述があります。工夫の部分でのこの両者の違いがあれば、教えてください。

2つ目です。同じく3ページ、(エ)の三省堂では、巻末の学習用語辞典が大変使いやすいとあり、光村では巻末の語彙表に多くの語彙が提示されているも

の、生徒自らが活用できるかという難しさがあると記述がありました。どう  
いう点でその使いやすさを判断したのか教えてください。

3つ目です。同じく3ページの(オ)の読書活動の充実を図るための工夫や  
配慮の観点ですが、両者ともブックトークの取組などの説明があり、充実して  
いるようですけれども、取り上げている本の傾向ですとか冊数などに違いがあ  
れば、教えていただきたいと思います。

(国語担当指導主事)

荒川委員からいただきました質問の1つ目からお答えいたしたいと思いま  
す。まず1つ目の、自ら学習を進める工夫についてお答えいたします。どちらの教  
科書も、自ら学習を進める工夫というのは大変優れているというふうに調査会  
では話題になりました。特に、読むことの単元で見ていただくと分かりやすい  
のですけれども、どちらの教科書も単元の流れを見開きで2ページで見渡せる  
ようになっておりまして、学びの見通しを持つところから始まって、内容の整  
理、読み深め、自分の考えの形成、そして振り返るとい、その流れが統一さ  
れており、生徒が学び方を身につけられる教科書になっているといえます。

しかし、この2者を並べてみましたとき、特に同じ教材、読み物教材、例え  
ば1年生ですと、ヘルマンヘッセの少年の日の思い出等、同じ教材で並べてみ  
たときに、学習の流れは2者ともほぼ同じなはずなのですけれども、ぱっと紙  
面を見たときの印象といたしまして、行間を三省堂のほうが広く取っているせ  
いもあるのか、書き方に余裕があるような、そのような紙面構成になっており  
ます。

具体的に、もしよろしければ、見ていただきたいのですが、1年生の国語の  
教科書の、光村でしたらば212ページ、三省堂でしたらば214ページになります。  
どちらも同じような流れでの学習の進め方となっておりますが、ぱっと見た感  
じ、三省堂のほうが見やすいというのを印象的にお分かりいただけるかなとい  
うふうに思います。また、そこに使われている言葉や、指示文も、中学1年生  
が一人でも分かりやすい言葉というのが使われているのが三省堂です。光村図  
書も指示としては分かりやすいのですが、例えば概要という言葉が使われてい  
たり、端的にという言葉が使われていたり、価値観という言葉が中学1年生の  
教科書で使われているとなると、そこにはやはり教員の追加の説明であるとか、  
解説がやはり必要になるかなというふうに考えます。その点、三省堂は非常に  
平易な言葉で同じような指示がされているというところがあります。

また、紙面構成も、同じような内容を指示しつつもゆったりと構成しており  
ますので、例えばこの学習ですと語り手というものが非常に重要な学習概念に  
なるのですけれども、光村の教科書は同じ紙面の下に、語り手について着目す

るというのが押し込まれている形なのです。近くにあるというメリットはあるのですけれども、三省堂はそれに対して、1ページめくっていただいて、次のページに改めて図とともに語り手のことが説明されているというところで、見やすさという紙面構成の上、子どもたちの学びやすさという意味では、三省堂のほうが優れているのではないかというご意見が調査会ではありました。

このコロナ禍において、やはり子どもたちの学びやすさというのが教師の教えやすさ以上に大事なのではないかというご意見が多数寄せられていた、そこからのまとめになるかと思います。

続きまして、2点目、語彙に関するご質問についてお答えいたします。語彙を豊かにすることは、新学習指導要領の大変重要な課題とされているのですけれども、そこでは、ただ辞書の言葉をたくさん知っているというような、そういう量的な側面だけではなくて、子どもたちがふだんの生活とか学習の場面で実際に使いこなせるような、そういう質的な語彙力がつくことが目指されています。そのような視点で2者の教科書の工夫を分析していきますと、三省堂の教科書の巻末には3年間を通して学習用語辞典というものが掲載されており、そこで掲載されている学習用語は、小学校で学んできたものも含めて、中学3年生まで学ぶものが網羅されております。それをいつも授業のときに参照できるということは、子どもたちが国語科の学びをらせん的に積み上げていく上でとても有効であろうというご意見がありました。生徒も学習の振り返りを書くとき、また、過去の既習事項を思い出したいときに、この辞典が有効に働くだらうというご意見です。

一方、光村のほうの語彙表についてですけれども、その目的というのは学習用語とはまた違っておまして、自分の思考とか気持ちにぴったり合う言葉をたくさん持てるようになると、そういう趣旨での語彙表になっております。心情語とか思考言語とか慣用句といった、いろいろな微妙な気持ちや複雑な思考を表す語彙を増やしていくと、そういう意図で書かれております。ただ、その語彙表を子どもたち自身が活用するという場面を考えた場合に、そこには教師の授業での、それを使う必然性のある工夫というものが欠かせないのではないかというご意見になりました。子どもたちだけでこの表を活用していく、自分で参照するというのはなかなか難しく、やはり授業の工夫次第なのですけれども、教師の仕掛けが伴えば、こちらの語彙表も非常に有効ではないかというご意見でした。

最後になりますが、3つ目の読書に関わるご質問についての回答でございます。2者とも非常に読書指導の単元、教材は大変優れているという高い評価を調査部会では受けております。紹介されている本のジャンルも多岐にわたっており、ただ紹介するだけではなくて、生徒が本を読んだみたくなる、著名人の

コラムが掲載されていたり、ビブリオバトル、ブックトークといった体験的な活動も施されています。紹介図書の冊数は3年間で光村は277冊、三省堂は141冊となっております。三省堂は一見少ないようなのですが、一冊一冊の本の紹介にやはり十分なスペースが取られているので、小さな図書館という、そういうタイトルでの、まさにそこに本が並んでいるかのような、そういう紹介の仕方をしているために、少し減っているかなというふうに考えられます。いずれにしても十分な冊数と考えます。

(元木委員)

参考資料1の第2回採択検討委員会の議事録の9ページのところにあります、下の枠組の中にある、調査部員からの、三省堂の教科書は非常にユニバーサルデザインを意識した構成になっているというような記述がありますが、このユニバーサルデザインを意識した構成というところをもう少し詳しく教えていただけますか。

(国語担当指導主事)

今ご質問いただいたユニバーサルデザインを意識した構成ということなのですが、実はこれ、ユニバーサルデザインを意識した構成というのは三省堂に特化したことではなく、今の教科書には、はっきり言って全ての教科書で配慮されていると感じます。ただ、先ほどの荒川委員からいただいたご質問とも重なってくるのですけれども、やはり行間がたっぷり取られていて、分かりやすい言葉が使われていて、子どもたちのふだんの生活言語でも対応できる、そういう指示文があるという意味では、より、いろいろな状況の子どもたちが自分で学ぶというところに対応できるのではないかというご意見はありました。

(元木委員)

もう一点よろしいでしょうか。同じ9ページの部分ですが、下のほうに、コロナの影響もありましてという文章がございます。先ほども説明の中にありましたが、このような状況において、直接教師が指導できない状況において、三省堂と光村の、どちらのほうが優れているかというところを説明いただけますでしょうか。

(国語担当指導主事)

このコロナ禍において、やはり、より、今回の新学習指導要領が目指している、主体的に学習に向かうという力が本当に大事になると、そういうことがよく分かりました。休校期間が長いということも含めて。そのようになったとき

に、主体的に学ぶ、学習に向かう力というのは、三省堂でも、もちろん光村でも、他の会社でももちろん意識されているのですけれども、やはり子どもたちが自分で、この課題で家でも1人でやってみようとか思える、やはりそういう構成というふうになった場合には、その内容の深さとかになると、また光村の素晴らしさというものもあるのですけれども、子どもたちが取り付きやすいという意味では、三省堂のほうが優れているのではないかというのが調査部員の先生方のご意見でした。

(新倉教育長)

それでは、質問もないようですので、討論に入らせていただきます。  
何かご意見等ございますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、国語の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

『三省堂』・『光村図書出版』で投票をお願いしたいと思います。

事務局が投票用紙を配付、各委員記入、事務局が回収して結果発表

(事務局)

『三省堂』4票、『光村図書出版』0票です。

(新倉教育長)

投票の結果、中学校国語については、総数につき『三省堂』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

それでは、書写について採択候補の決定に入らせていただきます。  
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校書写は、発行者4者のうち三省堂と光村図書出版の2者を答申いたします。

三省堂は、全体的にシンプルにまとめられています。学ぶべき順序立てが適切であり、注意点を意識しながら順を追って学習を進めることができます。また、学んだことを生かすための練習箇所も豊富で、大変工夫された内容となっております。

光村図書出版は、毛筆と硬筆との関連を持たせる工夫がなされています。また別冊の書写ブックを活用することで、関連づけて進めやすくなっております。直接書き込めるページが多く、練習する機会を意図的に増やすこともできます。文字を正しく整えて速く書く能力が育成できる工夫がなされております。

2者とも、横須賀の生徒に書写の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

それでは、次に提案説明をお願いいたします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、書写については三省堂と光村図書出版を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明について、ご質問がございましたら、どうぞ。

(川邊委員)

光村図書は、書写ブックということで、書くスペースも多いようなのですが、三省堂にはそういうスペースというのはなかったのでしょうか。

(国語担当指導主事)

今、ご質問いただいた件についてなのですが、光村図書には書写ブックという切り離して使う別冊がついておりますが、三省堂にはついておりません。その分、教科書内で練習するスペースが光村図書よりは広がっている、そういうものです。

(新倉教育長)

他にご質問等はありませんでしょうか。

それでは、書写の教科書につきまして、教育指導課長から提案のありました

2者の他に、委員の皆様の中で採択候補として審議したいものがございますでしょうか。

(各委員)  
推薦なし

(新倉教育長)  
それでは、書写の教科書についての質問に入らせていただきます。これらの候補本について何かご質問があれば、どうぞ。

(元木委員)  
先ほど、種目の国語で三省堂に採択が決まりましたが、もし今回、書写のほうを三省堂ではなくて光村を採択した場合、何か問題があるでしょうか。

(国語担当指導主事)  
調査部会の先生方ともそれを一緒に検討したのですけれども、書写の教科書が光村になっても、そこに大きな支障はないだろうと、そういうご意見が多かったです。ただ、三省堂になると、元の国語の教科書と同じ教材を書いてみるという課題が結構あるので、より有効になるのは、同じ会社になるといいのではないかというご意見は強かったです。

(荒川委員)  
では、私のほうから1点、お願いします。総合評価の中で、三省堂が学んだことを生かすための練習箇所が豊富だとの記述がありました。どのような場面で生かせるのか、具体例を幾つか挙げて教えていただければと思います。

(国語担当指導主事)  
新学習指導要領では、やはり毛筆学習と硬筆学習のつながりというのが非常に重視されておりまして、特に毛筆の筆圧の加減とか、あと筆の運び方、そこが今度、硬筆で、子どもたちの日常で書く、ノートとかメモに書く字に役に立っていく、そういう授業の流れを生み出すということが非常に重要となってきます。

三省堂の教科書の構成が、毛筆学習の直後に同じ字をすぐに硬筆で書くという構成になっておりまして、例えば、教科書の三省堂の20ページを見ていただくと、天地という字の練習があると思うのですが、その前のページに戻っていただいてもいいですか、こちらは毛筆が終わった後にすぐに硬筆で天地のこつを

使って3回、それも、最初は中心線を意識しながらというような、このような構成になっております。一方、光村も天地の後に硬筆練習をするスペースはあるのですけれども、1回となっています。むしろ違う字もいろいろ入ってくるという感じで、その際、先生方はやはり、今行ったことをすぐに生かせるという、その感覚をつかむためには、三省堂が非常に子どもたちにとっては学びやすいのではないかというご意見がありました。他のページにもそのような、つながっていくという、同じことを繰り返しやりながらつなげていくという工夫は三省堂のほうに優れていますし、書写ブックという別冊になるとなると、またそこで開いて探してという、そういう一手間がかかりますので、すぐに移っていけるというところに魅力があるというお話でした。

(元木委員)

光村のほうにある別冊についてなのですが、現場としては分けられたほうがいいのか、もしくは一緒になっていたほうがいいのか、ご意見があるでしょうか。

(国語担当指導主事)

こちらが非常に強くいただいた先生方からの意見で、3年間、書写の教科書って同じものを使うのです。その場合に、この書写ブックを何人もの子がなくしてしまうのではないかと、やはりその心配って、非常に強いのです。もちろん名前を書くスペースとかはあるのですけれども、こちらを3年間持ち続けて、非常に有効にずっと3年間活用し続けられるかとなったときに、なくす子はきつというのではないかと、そういうご指摘は強くありました。

(新倉教育長)

質問もなくなったようですので、質問を打ち切らせていただき、討論に入らせていただきます。何かご意見等ございますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、書写の教科書に関する審議を終了して、採択候補を決定したいと思います。

『三省堂』・『光村図書出版』で投票をお願いいたします。

事務局が投票用紙を配付、各委員記入、事務局が回収して結果発表

(事務局)

『三省堂』4票、『光村図書出版』0票です。

(新倉教育長)

投票の結果、中学校書写については、総数で『三省堂』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

次に、社会（地理的分野）について採択候補の決定を行いたいと思います。  
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校社会（地理的分野）は、発行者4者のうち帝国書院の1者を答申いたします。

帝国書院は、見方・考え方を最も意識した内容・構成であります。多くの資料を複合的に使い、多面的・多角的に考察を深め、またその手段となる技能の道筋も立てて導いております。特に、章のまとめでは、知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等にアプローチした課題をバランスよく取り入れております。

横須賀の生徒に社会（地理的分野）の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

では、次に提案説明をお願いいたします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、社会（地理的分野）については、帝国書院を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明について、ご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

社会(地理的分野)の教科書については、教育指導課長の提案のありました1者の他に、委員の皆さんの中で採択候補として審議したいという教科書はございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

次に、社会(地理的分野)の教科書について質問をお願いしたいと思います。

(川邊委員)

地理には4者もあるようなのですけれども、そのうちの帝国書院だけになったという理由を簡単にお願いいたします。

(社会担当指導主事)

お答えいたします。調査部会の中で帝国書院が高い評価を受けたところは、新学習指導要領での学びに非常に適しているというところですね。見方・考え方を働かせる、主体的・対話的で深い学びにつながるといった工夫がされているところが評価されました。

(荒川委員)

帝国書院になった理由の中で、たくさんあるとは思いますが、2つ質問させていただきたいと思います。

1つ目は、議事録の中で帝国書院の教科書のよさを挙げられている中に、声という特集のページがあって、各地域や各産業等で実際に働いている人の声や体験談を取り上げているとのことでした。他の教科書にはそのようなページがなかったのか、また、他の教科書にもそのようなページがあったとしたら、帝国書院が優れていた点を教えていただきたいと思います。

2つ目ですけれども、今年もそうですけれども、近年は自然災害が大変多く、各地域で減災の取組などが行われていると思うのですが、例えば津波ハザードマップなど、災害についての帝国書院のよい点を教えていただければと思います。

(社会担当指導主事)

では、まず1つ目、声のコーナーについてお答えいたします。このようなコーナーにつきましては、他の図書の中にもございます。それらとの違いについてなのですけれども、例えばヨーロッパ州の單元において、帝国書院は72ページと78ページに2人の声を紹介しております。一人はEUのメリットについて分かりやすく話しております。そして、78ページのもう一人につきましては賃金の話に触れておりまして、ここからEU内における経済格差という学習課題につなげることができます。このように、他の図書につきましては人々の暮らしに触れるものがほとんどなのですけれども、授業における学習課題とのつながりがある点が帝国書院の優れている点です。

次に、2つ目、自然災害に関する学習についてなのですけれども、帝国書院におきましては、148ページから153ページで集中的に災害について学びます。ここでは、津波ハザードマップを載せるだけではなくて、その読み取り方にまで言及しております。この災害について学ぶというのは学習指導要領上に位置づけられておりますので、もちろん他の図書にもございますが、この読み取り方にまで言及しているというのは帝国書院のみになりますので、ここでは生徒はより深く学ぶことができるといえます。

また、この災害についてなのですけれども、水害ですとか震災ですとかそういった、集中的に学ぶ場所ではなくて、教科書を通じて9つ防災コラムというのを掲載しております。他者につきましても、それぞれ断片的にももちろん触れてはありますけれども、防災コラムということで明記して位置づけて、教科書を通じて学習できるのは帝国書院だけというふうになっております。

(元木委員)

7ページのほうの(イ)に、合計ページ数295ページというふうに書いておりますが、これは他の図書に比べて多いのか、少ないのかというところを教えてください。

(社会担当指導主事)

お答えいたします。ページ数及び内容量につきましては、他の他者と比べると若干多いというところで、こちら調査部会の中でも話題となりました。意見としては、少し多いという意見もあれば、これぐらいが適正だという意見の中で、調査部会の中では、現状の横須賀市の教員の年齢構成あるいは経験年数などを考慮して、少しでも多い情報があるほうが授業が行いやすいのではないかという意見が出ました。

(元木委員)

お答えいただいた中で、ボリュームがあり過ぎて消化不良になるというような意見はあったでしょうか。

(社会担当指導主事)

その量につきましては、本文ですとか取り扱う量というよりは、資料、データですとか、そういったものが非常に豊富という見解でございます。

(新倉教育長)

私から、今の部分について1点だけ確認させていただきます。ということは、他の教科書の場合には、別の資料を使わないと授業として構成が難しいからという部分があるのでしょうか。

(社会担当指導主事)

他の資料を使わないと、というところまで他の会社の資料が不足しているわけではございませんが、帝国書院は特に資料が多いので、例えば経験が少ないですとか、年数が若い先生であっても多面的・多角的な授業が展開できる可能性が高いということです。

(元木委員)

今のお話に関連するのですが、掲載されている資料は新しいでしょうか。資料の新しさというところを。

(社会担当指導主事)

掲載されている資料及びデータの年数につきましては、他者と比較して、特に異なる点はございませんでした。

(元木委員)

別の質問なのですが、地理における技能を磨くというところがあるのですけれども、地理における技能というのはどういったことを指しているのでしょうか。

(社会担当指導主事)

こちらのコーナーにつきましては、地理的分野において少し専門的な学習の部分で出てくるのですけれども、例えば9ページに地図帳の索引の引き方について学ぶページがございます。こちらにその、技能を磨くのコーナーがありま

して、帝国書院の特徴としましては、ここに動画がリンクされて準備されておりますので、本文上でも学ぶことができますし、動画を見ながら地図帳の索引を学ぶことができるというのが帝国書院の特徴です。

(新倉教育長)

今回の教科書採択に当たって話をしているところの、学びに向かう力・人間性といったときの人間性というのは、どういうふうな判断をされているのでしょうか。

(社会担当指導主事)

こちらの人間性等という部分におきましては、教科の中で、例えば評価・評定に表すことのできない部分、例えば、仲間と学ぶときの仲間との関わりですとか、そういった部分の心の部分の人間性等という中に表れていると考えております。

(新倉教育長)

具体的に、この社会の地理的分野において人間性等を育てると言っているところが、どこがかみ合うのかが少し分かりにくかったです。全ての教科書には多分、その人間性の論議が出てくるのですが、あえてこのところで、地理的な分野というこの教科書の中で判断をするときに、他の教科書と比べたときにどういう点が優れているというふうに判断できるのでしょうか。

(社会担当指導主事)

こちらの3つの資質・能力のうち、学びに向かう力・人間性等における議論につきましては、調査部会の中では主に、学びに向かう力について、どのようにこの教科書で育まれるかという点で話し合われたのですが、人間性等につきましてはあまり話題に上がりませんでした。

(新倉教育長)

それでは、社会について、質問もなくなりましたようですので、討論に入らせていただきます。何かご意見等ございますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、社会（地理的分野）の教科書に関する審議を終了

し、採択候補を決定したいと思います。

中学校社会（地理的分野）につきましては、提案をいただきました『帝国書院』でよろしいでしょうか。

（各委員）

異議なし

（新倉教育長）

ご異議ないようですので、『帝国書院』を採択候補として決定をいたします。

（新倉教育長）

次に、社会（歴史的分野）について、採択候補の決定を行います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

（小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長）

中学校社会（歴史的分野）は、発行者7者のうち東京書籍と教育出版の2者を答申いたします。

東京書籍は、授業の振り返りとして学習内容を深く掘り下げられるように、箇条書や文章でまとめる活動を発展的にできるように工夫されております。資料が豊富でして、関連性が分かりやすく、生徒が考察する上で大いに役立つ内容になっております。各時代のかぎとなる事象、各時代をつなぐ事象が丁寧に記載されております。また、学習課題が生徒目線で作られていて、考えやすいものとなっております。

教育出版は、本文は最も社会的事象を客観的に表現しており、生徒たちが適切に学ぶことができるようになっております。各ページに学習課題が分かりやすく提示され、振り返りとして確認、表現の課題を設置し、つなげることで、知識及び技能、思考力・判断力・表現力の育成に近づけるものとなっております。

2者とも、横須賀の生徒に社会（歴史的分野）の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

（新倉教育長）

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、社会（歴史的分野）については、東京書籍と教育出版を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明について、ご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、次に社会（歴史的分野）の教科書について、現在、教育指導課長から提案のありました2者の他に、委員の皆さんで採択候補として審議したい教科書がございましたら、お願いをいたします。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、社会（歴史的分野）の教科書についての質問に入らせていただきます。これらの候補本に関して何かご質問がございますか。

(荒川委員)

では、私のほうから2点、質問させていただきます。

1つ目ですけれども、議事録13ページ、事務部会からの報告の中に、東京書籍は学習課題が生徒目線で作られていて、考えやすいものとなっておりますとあります。同じページの調査部会の報告の中には教育出版の学習課題のよさも記されていますが、教育出版はどのような課題整理なのでしょう。両者の課題整理の違いや、両者の優れている点について教えてください。

2つ目です。同じく13ページの調査部の報告の中に、教育出版を高く評価した3つ目、身近な地域を調べようという設定の項目のよさが説明されていました。どんなふうに取り上げられているのか、具体的な例を挙げて教えていただければと思います。また、東京書籍では身近な地域を調べようというような項目はなかったのでしょうか。その点についても教えてください。

(社会担当指導主事)

それでは、順にお答えいたします。まず1つ目の学習課題についてなのですが、教育出版、東京書籍、両者の学習課題は、ともに非常に分かりやすく、資質・能力の育成につながるものになっているとできると思います。では、その両者の違いについてなのですが、一番の違いは中単元における問い方です。教育出版では最初から最後の節まで、どのようにという形で問いが構成されております。東京書籍につきましては最初の単元につきましては、どのようにから始まりますが、2章3節の聖徳太子のところからが、なぜに変わっております。どのようにという問いと、なぜという問いでは一般的に難易度が違い、どのようにのほうが内容的に生徒が答えやすいというふうに言われております。この違いにつきましては、両者の中学生という発達段階の捉えの違いだと捉えています。という違いにつきましては、調査部会の中では話が出ました。

続いて、2つ目、身近な地域を調べようという設定の項目に関してなのですが、この設定につきましては、東京書籍につきましても設定されております。その両者の違いについてなのですが、教育出版につきましては、90ページに古代から中世の寺社を通じて政治と仏教の関わりを学ぶページがあるのですが、その例として神奈川県鎌倉市の円覚寺が記載されております。また、274ページには、第二次世界大戦後の町の移り変わりを学ぶ例として神奈川県の川崎市が載っております。ともに横須賀市と同じ神奈川県の例ということで、生徒の主体的な学びによりつながるのではないかという意見が出ました。東京書籍につきましては神奈川県についての記載がございませんでした。

(元木委員)

9ページの部分ですが、(ア)のところ客観的な表現というのがありますが、何をもって客観的な表現といっているのでしょうか。

(社会担当指導主事)

こちらの客観的という意味に関してなのですが、これも調査部会の中ではかなり大きな議論が行われました。社会的事象、特に日本と他国の戦争ですとか、そういった部分につきましては、何か思想につながるような記述があるか、ないかという部分で全ての教科書をチェックしまして、調査部会としては、最も客観的に社会的事象を記述しているのが教育出版ということで、こちらを評価しました。

(川邊委員)

学習課題の質が高いというところで、見方・考え方を育むということですが、歴史の場合、非常に見方・考え方は各自、変わってくると思うのですが、その辺はどのように捉えられていますか。

(社会担当指導主事)

今のご質問についてなのですが、子どもたちが課題に向かっていく上での社会的な見方・考え方を促す工夫という点では、東京書籍、教育出版に明確な差は見られなかったとすることができます。ただ、子どもたちが課題に向かったときの違いが、調査部会の中では、その2者の大きな差として意見が出ました。本文の分かりやすさ、因果関係をしっかり理解した上で子どもたちが課題に向かうというのが、歴史ではとても大事だという意見が多かったのですが、その因果関係を本文の中で、子どもたちが自分で読んで自分で分かるという、本文の分かりやすさにおいて両者には差があるということで、先ほど国語でも話があったように、コロナ禍の中で子どもたちが自分で家庭学習を進めていくという重要性を考えたときに、本文の分かりやすさというのと課題との関連性がこの2者の違いという意見が調査部会では多かったです。

(新倉教育長)

今の点について、こういった歴史的なものについてというのは、客観的というか、事実関係は事実関係できちんと記載がされていて、それぞれを読み取っていく力ということになっていくのかなと、つまり、疑問を持って、それはどういふものなのかを調べる力というのが向かい合っていく力かなというふうに思っているのです。なので、先ほど言った客観性というのは、実は厳密な客観性がなくて、むしろ主観的な客観性になってしまうのが教科書ではないかという不安を持っています。なので、客観性の説明のときは十分自分でも理解できていなかったのと、もう一つは、本文のところに書いてある文章を読解することが目的になってしまうと、そこにある客観性というものと違ってきてしまうのではないかと思ったのだけれども、そこをどういうふうに整合的に考えられるのですか。

(社会担当指導主事)

まず、客観性につきましては調査部会の中でも、歴史的な事実につきましては、どの出版社に関しましても載せてはいます。ただし、その事実に関する解釈ですとか思いのようなものが記述に表れていまして、そこが出版会社によってかなり違いがあるという中で、同じ内容を書いてあっても若干の思想を感じ

るようなものの差がありますので、そういった思想の部分が全く、薄いといえますか、よりその事実を客観的に載せているものが教育出版であるというふうに調査部会の中では意見が出ました。

先ほどの本文のというところが、私の説明が下手で分かりづらかったかもしれないのですが、少し具体的にお話をさせていただきますと、東京書籍も教育出版も同じページ、188ページになります。こちらに日清戦争の記述がありまして、ともにページの最初に甲午農民戦争について書かれております。調査部会での話題の中で、甲午農民戦争の記述を比べたときに、教育出版の内容につきましても、その起きた背景ですとか、それぞれ改革派、あるいは保守派の立場がどのようなものなのかというのが中学生でも分かる言葉で分かりやすく書いております。

一方、東京書籍の甲午農民戦争の記述につきましても、1行目に民間信仰を、という説明があります。ここを学ぶのは中学2年生になると思うのですが、中学2年生には民間信仰という言葉が分かりませんので、まずこちらの説明から授業では行う必要があるという形で、学ぶべき学習課題について子どもたちが向かうときに、子どもたちが自分たちで読んで、自分たちで内容、因果関係を理解できるのと、そうではないという違いがこの2者の大きな違いというのが調査部会の中で意見として出ました。

(元木委員)

今の説明ですと、それが客観的な表現になっているかどうかという説明になっていないと思うのですが、両方とも同じ事実を説明しているだけで、語彙の難しさとか簡単さというのは、客観的な話ではなくて、同じことを表現したものですよね。分かりやすさというところが客観的というわけではないと思うので、そこは説明が少し違う気がするのですが、それでも。

(社会担当指導主事)

すみません、社会的事象に関する記述の客観性と、本文の分かりやすさについては、別に考えていただければと思います。

(元木委員)

10ページのほうです。東京書籍のほうですが、資料が豊富にあり、関連性が分かりやすく書いております。ここを見ますと、東京書籍のほうで資料をふんだんに使っている分、事実のみを表現するような形になっているので、客観的な説明になっているかなという気がするのですが、そこはいかがでしょうか。

(社会担当指導主事)

ただいま資料に関するご質問をいただいたと思うのですが、調査部会のほうでは、教育出版と東京書籍において、教科書に載っている資料につきましては、量ですとかそういった部分においては大きな差は特に見いだせませんでした。

(新倉教育長)

それでは、質問もないようですので、討論に入らせていただきますが、何かご意見等はございますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、社会（歴史的分野）の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

『東京書籍』・『教育出版』での投票をお願いいたします。

事務局が投票用紙を配付、各委員記入、事務局が回収して結果発表

(事務局)

『東京書籍』0票、『教育出版』4票です。

(新倉教育長)

投票の結果、中学校社会（歴史的分野）については、総数で『教育出版』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

それでは、次に社会（公民的分野）について、採択候補の決定を行います。教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校社会（公民的分野）は、発行者6者のうち東京書籍の1者を答申いたします。

東京書籍は、活字の見やすさ、図・絵・写真などがよく考えられ工夫されて

おります。各単元の学習内容にチェック（知識・技能の確認）、トライ（発展的な課題）が用意され、生徒の習熟度に合った課題設定が可能です。

横須賀の生徒に社会（公民的分野）の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

（新倉教育長）

次に、提案説明をお願いいたします。

（教育指導課長）

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、社会（公民的分野）については、東京書籍を採択候補として提案いたします。

（新倉教育長）

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明について、質問はございますでしょうか。

（質問なし）

（新倉教育長）

それでは、社会（公民的分野）の教科書については、教育指導課長から提案のありました1者の他に、委員の皆さんの中で採択候補として審議したい教科書があれば、ご推薦いただきたいと思います。

（各委員）

推薦なし

（新倉教育長）

それでは、社会（公民的分野）の教科書についての質問に入らせていただきます。現在、提案をいただきました候補本に関してご質問があれば、お願いをいたします。

（元木委員）

まず、11ページのところなのですが、（イ）の部分で、B5ワイド判であり、イラストや図が大変見やすいということの記述があるのですが、この記述は他の図書はどうなっているかというところがまず1点目です。もう一点目

が、他の図書に比べて、データの新しさという点ではどうでしょうか。この2点、教えてください。

(社会担当指導主事)

まず、サイズにつきましては各会社によって、B5ワイド判が多いのですが、違いがあります。調査部会の中ではこちらのサイズが一番適しているだろうという意見が出ました。資料の新しさにつきましては、他者と比べて大きな違いは見られませんでした。

(新倉教育長)

そのB5ワイド判が見やすいということになってきたときに、生徒がそれぞれ登校のときに全ての教科書が同じサイズであれば一番いいわけですよね。そこにワイド判のほうがいいよとかという基準を設けたというのは、何かあるのですか。

今の主張は、もともとがB5ワイド判のほうが見やすいでしょうということが観点にあるとすると、全ての他の教科書を採択するときもそれは判断基準として出てきてしまいますよね。生徒一人にとってみれば、教科書のサイズが全て同じほうが確認もしやすいということに、他の教科にも全部なってしまうので、B5サイズ判がいいのだよという根拠のところというのは、他にも全部影響していることになってしまいます。そういうふうに他の教科も考えていたのかなというのが疑問になりますから、この教科書についてだけB5ワイド判がいいよという根拠がはっきりとしていないので、そこを教えてください。

(社会担当指導主事)

今ご指摘のところにつきましては、調査部会の中では、例えば他の教科ですとか、そういった部分についての広い視野での話合いというのはされておられません。公民分野の出た図書についてのみの話となりました。

(荒川委員)

では、私から2つ質問させていただきます。

1つ目ですけれども、採択資料ページの11ページ、(ア)の観点のところ、学びに向かう力・人間性を養うために、課題の設定が分かりやすく表示されているとあります。この課題設定はどのようなものなのか、具体的に教えていただければと思います。

2つ目は、同じく11ページの総合評価には、習熟度に合った課題設定が可能であると評価されていますが、これは先生方が個々の生徒の実態に合わせて柔

軟に対応できる余地が多いということなのかどうかというところをお聞きしたいと思います。

よろしく願いいたします。

(社会担当指導主事)

お答えいたします。まず、1つ目の学びに向かう力・人間性を養うための課題設定という部分につきましては、今回の学習指導要領において学びに向かう力・人間性を養う上では、社会科においては単元の課題、単元課題の設定、あるいはコンジの課題の設定というのが非常に重要視されております。東京書籍につきましては各章の、いわゆる大単元の最初にまず導入の活動がございます。その活動を通して、その大単元の学習課題と中単元の学習課題が設定できるように教科書の中に工夫されております。その学習課題を設定していくプロセスが非常に子どもも分かりやすく、論理的に書かれているものになりますので、その後の授業ですとか章の振り返りにおいても生徒が意識することができますので、学びに向かう力の涵養につながるのではないかという意見が出ました。

2つ目の、習熟度に合った課題設定というところなのですけれども、各ページごとにチェックという課題とトライという課題が設定されております。チェックにつきましては、学んだ内容をまとめることができれば回答できるものになっております。一方、トライにつきましては、何らかを考えましようですとか、何らかを説明しましようといったものになっており、より高度な概念的知識を子どもが獲得していないと、なかなかクリアできないものになっております。ですので、先生方が授業の中では、そのクラスの実態、生徒の実態に合わせて課題を選んで設定することができるというところがここの説明になります。

(川邊委員)

採択資料のところの(ウ)ですけれども、社会的な見方・考え方を働かせる視点、この文章の意味が分からないのですけれども、具体的にどのようなものでしょうか。

(社会担当指導主事)

実際に教科書を見ていただければと思うのですけれども、例えば教科書の90ページにつきましては、国会について学ぶページですが、左下を御覧いただくと見方・考え方というコーナーがございます。こちらに今日学ぶ資料、学ぶ内容につきまして、民主主義の観点から見ましようという説明がされております。そうすると、生徒は触れる資料ですとかデータ、あるいは本文につきまして、果たしてそれが民主主義の観点からいくとどうなのかなという形で学んで

いくということ、その時間でどのような見方・考え方をすればいいのかというのが教科書の中に実際に記述されておりますので、非常に生徒も、あるいは授業をする教師の立場にとっても扱いやすいとすることができます。

(元木委員)

英語のほうにはSDGsについての記述があるのですが、この公民の中ではそういった、SDGsだったりとか持続可能な社会だったりとかという、現代の中で最近の思想的なところというか、そういったところの記述についてはいかがでしょうか。

(社会担当指導主事)

SDGsにつきましても現代的な課題として、どの教科書においても取り上げられているものになりますので、あえて東京書籍のその内容には触れなかったという状況でございます。

(元木委員)

書いている内容が、他の図書に比べてどれだけ充実しているかということです。現代というか、新しいそういった問題に対する記述のボリュームについて、他の図書との比較をお願いできればと。

(新倉教育長)

SDGsについて書いてあるということではなくて、SDGsの観点からどのような記載が盛り込まれていたのだろうかという質問だと思います。

(社会担当指導主事)

SDGs、いわゆる持続可能な発展という部分におきましては、多岐にわたる分野について触れておりますので、例えば172ページを見ていただければと思うのですが、こちらは経済分野の第5節の中のページについてなのですけれども、こちらの本時のタイトルも、経済の持続可能性と真の豊かさ、そして、学習課題につきましても、持続可能な社会を作るために経済はどのような役割を果たすべきでしょうかという形で、公民の中で学習する政治あるいは経済、様々な分野での視点として、そういったSDGsに関する記述がされているという形です。

(元木委員)

確認ですが、いろいろなページのところにいろいろと盛り込まれているとい

うことでよろしいですか。

もう1点なのですが、同じように内容の話なのですが、昨今の災害ですね、防災・減災についての記述はいかがでしょうか。

(社会担当指導主事)

少々時間をいただきたいと思います。

(元木委員)

質問の仕方が悪かったかもしれないのですが、要は、地域で防災・減災に取り組んだりとかというような説明だったりとか、もしくは世界的な災害についての記述があって、それに対して世界の方々はどのように対応しているとか、そういったような記述について、あったかどうかを教えてくださいと思います。

(社会担当指導主事)

公民的分野の教科書につきましては、調査部会の中で、その防災あるいは減災の部分につきましては、特に議論というのがされなかったという状況でございます。ですから、地理あるいは地図帳ですとか、そういった部分ほどページは割かれていないというのが状況でございます。

(新倉教育長)

私から1点、11ページのところで、東京書籍のところで「少年町長を経験して」というような項目をピックアップしています。これを題材として何をどういうふうにしようとしているところが、今の生徒たちにこれを通して何を伝えようというのがこの公民の目的だというふうに考えたらいいのですか。ピックアップをして、わざわざこういう特徴があるよということを言っていて、これをテーマとして先生方が子どもたちに何を教えたいのか、これがあることによって、他の教科書よりも何かをより強く訴えられるというポイントがあったから御推薦いただいているのかなと思うので、そこをどういうふうに見られたかというのを教えていただけますか。

(社会担当指導主事)

この「少年町長を経験して」、あるいはここに記述があるように「声優のお話」ということで、先ほど地理の中でも話が出てきましたけれども、様々な立場の人の言葉を紹介することによって、多面的あるいは多角的な学習につながるというふうに調査部会では評価しました。こちらの少年町長というところも、実

際の町長の仕事に触れてみた子どもの目線で見えた仕事について書いてあるところに触れることによって、また新たな見方に中学生が触れることができるというところで評価しております。

(新倉教育長)

言葉として書いてあるからというのではなくて、その言葉を読ませることによって、その後ろと言ったらおかしいのだけれども、何を感じさせようとしたのかということが大事だと思うので、そういう経験談がありますよということだけが網羅されているからこの教科書がいいということにならないと思うのです。その経験談が書かれていて、それを読みこなすことによって何を気づかせようとしているのかというところが重要なのだと思っているのです。少なくとも、この表現では、そういう立場の人たちの経験談が書いてあるから、だからいいのだというところで止まってしまっているのです。ここを重要視したということは、その経験談の裏にある何かを教えたいからなのだと思うので、そこをどういうもののためにこの「少年町長を経験して」というのを、いい話だよと持ってきたのかが知りたかったのです。

(社会担当指導主事)

調査部会の中で出た話としましては、世の中における社会的事象については、特に現代における社会的事象につきましては、同じ事象についても立場が違えば、見方を変えれば違う受け取り方ができるというところを重要視しましょうという形で、そういった場合に教科書ではどういうふうにそれが表れてくるのかといったときに、様々な立場の人の意見だったり考え方に多く触れるほうがいいのではないかということで、こちらに書かせていただきました。

(新倉教育長)

ご意見がございましたらお願いします。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、社会（公民的分野）の教科書に関する審議を終了して、採択候補を決定したいと思います。

中学校社会（公民的分野）については、ご推薦いただいた『東京書籍』でよろしいでしょうか。

(各委員)  
異議なし

(新倉教育長)  
ご異議ありませんようですので、『東京書籍』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)  
それでは、次に地図について、採択候補の決定に入らせていただきたいと思います。  
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)  
中学校地図は、発行者2者のうち帝国書院を答申いたします。  
帝国書院は、A4判サイズということで、地図が大きく見やくなっております。また、地図を活用する地図活用という問いを設定し、社会的な見方・考え方を働かせることができる点が大変優れております。  
横須賀の生徒に地図活用の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)  
次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)  
ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、地図については帝国書院を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)  
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明がありましたけれども、ご質問はよろしいでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)  
次に、地図の教科書についてですが、教育指導課長の提案にありました帝国

書院の他に、委員の皆さんの中で採択候補として審議したい教科書がございましたら、お願いをいたします。

(各委員)  
推薦なし

(新倉教育長)  
では、地図の教科書についての質問をお願いいたします。

(元木委員)  
サイズについてなのですが、A4判サイズで見やすいということだったのですが、もう一者のサイズはどうなのでしょう。

(社会担当指導主事)  
もう一者のほうはB5判ワイドの大きさです。

(元木委員)  
今も拝見したのですが、先ほどの公民はB5判ワイドで見やすかったということで、教育長からもありましたが、持ち運びのよさでいったらB5判ワイドでそろえたほうが持ち運びしやすいと思うのですが、その点はいかがでしょう。

(社会担当指導主事)  
今ご指摘のあったとおり、B5判ワイドで統一されているほうが本来、持ち運びの部分ではいいのではないかという意見も出ました。ただ、実際に今、お手元にあると思うのですがけれども、実際の地図を開いていただいたときに、特に地図記号ですとか、かなり詳細にいろいろ載っておりますので、実際に2者の地図を開いて見比べていただいたときには、かなり生徒が見たときの見やすさですとか、分布の分かりやすさですとか、そういったもので、あえて地図帳についてはこちらのサイズのほうがいいという意見が多かったです。

(元木委員)  
今確認したのですが、日本地図全体を見たところ、やはりA4判のほうが見やすいのは確かに見やすいです。こういった形で折られていて、広げられて、拡大して見やすくなっているというところもあるので、そういった点ではこちらが見やすいと思いました。

(荒川委員)

では、私から2点、質問させていただきます。

1つ目ですけれども、帝国書院の採択資料13ページの総合評価欄に、地図活用という問いを設定し、社会的な見方・考え方を働かせることができる点が優れていると記述されていました。例を挙げて具体的に、その優れている点を教えていただければと思います。

もう一点ですけれども、議事録16ページに、防災の視点を意識した地図や資料があり、様々な災害と戦っている人に寄り添いながら、子どもたちが未来や過去に視点を向けていけるとの記述があります。具体例を挙げて教えていただけたらと思います。

(社会担当指導主事)

では、お答えいたします。まず1つ目の地図活用という問いについてなのですが、例えば44ページにアフリカ州についての資料が載っていると思うのですが、地図活用の問いとしては、1日に1.90ドル以下で生活する人の割合が高い国はどのような国だろう、⑦図の鉱山資源に着目して考えてみようという問いがあります。これにつきましては、鉱山資源の分布の様子と、モノカルチャー経済の背景という見方や考え方を生徒が働かす問いになっておりまして、非常に深い学びにつながっていくものという意見が出ました。

2つ目の防災の視点を意識した地図や資料についてなのですが、同じく132ページには東日本大震災後の宮古市の復興の歩みの様子が記されております。また、108ページにつきましては富士山が噴火した場合の降灰の予想が載っております。このように、主に日本の地図に関するものなのですが、8か所、防災マークというものがつけられて、それ専用の資料が載せられていますので、これは防災教育につながる優れた試みとして調査部会で高く評価されました。

(新倉教育長)

今の点について、1点だけ私のほうからお願いしたいのですが、いわゆる社会の地図に関する授業と防災教育というものを、具体にはどういうふうに融合させようと考えているのですか。つまり、教科書の採択として、その防災的な部分がたくさん書いてあるというのは、それは教科書としては分かるのですが、横須賀の地理の授業の中で防災教育はこう充実させるから、この教科書がいいのだという観点の説明になっていないので、そこはどういうふうに指導主事は今後の学校だとかと話をしていくつもりなのかを教えてください。

(社会担当指導主事)

調査部会でそこまで踏み込んだ話は出ませんでしたけれども、例えば関東地方を学習する際、教科書では必ず火山灰について、関東ローム層については触れると思うのですけれども、それが既に過去のもの、過去に起こった噴火によってできたものというのは、どの地図帳を使っても授業は可能だと思うのですけれども、実際には今後、遠くない未来にまた噴火する可能性があって、それに対して私たちは備えなくてはいけないよという内容に、この地図帳のこの資料があれば、少しは触れて、今後の防災にもつなげるという意味合いで、授業の中で取り扱うことができると思われま

(新倉教育長)

これは全てに対する要望なのかも分からないのですけれども、教科書にこういう効果があるとか、ここが特徴的だよということだけで採択することが目的ではなくて、その特徴点を選んだのだから、それを授業で活用してもらおうということを現場に落とさなければいけないわけなので、分科会なりが選定した理由というのは明らかに各先生方にお伝えいただいて、そこを生かすのだということ盛り込んでほしいなというのは、そこなのです。だから、活用できるデータが入っている教科書を提供するのだから、先生方はそれを十分活用してください、それを実践してくださいというところに結びつけていただかなければいけないと思うので、ここで特に強調されている点というのがどうしたら伝えられるかというのは、ぜひお願いしたいなと思います。

(社会担当指導主事)

承知いたしました。

(川邊委員)

地図はやはり資料があって、地理等、一緒に活用するというのも大事だと思うのですけれども、ただ、やはり地図というのはビジュアルの面も大きいと思うので、何かそういうところで、例えばQRコードを使うとかというような工夫をされているところはあるのでしょうか。

(社会担当指導主事)

この2者の地図帳の比較の中で、大きな違いとして調査部会の中で挙げた点なのですけれども、61ページを見ていただければと思うのですが、こちらのほうに鳥瞰図が載っております。前のページには、よく御覧になられると思う

のですが、一般的な地図が載っているのですけれども、その次のページを見ると、より、もう少し大きく、北アメリカ州の特徴を捉える、あるいはその鳥瞰図の中には観光地ですとか、有名な建物ですとか、世界遺産ですとか、そういったものも載っていますので、より生徒が視覚的に特徴を捉えることができるということで、調査部会の中では大きく評価しました。

(新倉教育長)

そこに関連したところで、私のほうから質問したいのですが、GIGAスクールだとか言われて、これから1人1台のパソコンがという授業展開をするのだという方向の中で、こういった地図というのは、今言ったビジュアルの観点だけでいくと、平面的な書物から見るのではなく、むしろ立体的な映像で学ぶということが必要になってくるかと思うのですが、他の教科書も含めて、そういったものを読み取れるQRコードや何かというのがどの程度入っているものなのか、他者と比べてどうかというものを含めて教えてほしかったのです。

(社会担当指導主事)

QRコードにつきましては、東京書籍も帝国書院も兼ね備えてはおります。ただ、中身を確認しましたところ、例えば白地図ですとか、あるいはNHKフォースクールなどの他のページへリンクするですとか、そういったところにまだとどまっておりますので、今おっしゃられたような立体的な地域の把握とかということまでは残念ながら至っていない状況になっております。

(新倉教育長)

それは、例えば今回推薦をいただいているけれども、他の教科書でも現在は、どこか優れたものが出ているということがないということですか。

(社会担当指導主事)

もう一者、いわゆる東京書籍につきましても、それを超えるようなQRコードの中身にはなっておりません。

(元木委員)

地図の活用の話なのですが、横須賀の地理を教える上で、この地図はどういう形で活用できるかというか、活用例みたいなもの、具体的なものはあるでしょうか。議事録のほうに、各地域の防災について必ず記載があるというような説明がありました。授業では恐らく、横須賀についても取り上げることがあると思います。例えば横須賀の防災を扱うときに、この地図はどのように活用で

きるでしょうか。

(社会担当指導主事)

社会科において、例えば日本の学習という形になった場合に、それぞれ各地域における特徴を基にした、例えば学習課題、教科書にあるものでもいいでしょうし、あるいはオリジナルの学習課題でもいいと思うのですけれども、そういったものにつきましては、やはり資料、データ、そういったものから子どもたちが自らその課題の回答を協働的な学びを通して探していくという授業が多く行われております。そういった意味では、教科書に載っていないような資料だったり、データがこちらの帝国書院の地図には多く載っておりますので、先ほどお話のあった防災についてもそうなのですけれども、そういった意味で地図帳を授業の協働的な学びに活用していくということが考えられます。

(元木委員)

その際に、例えば地図の記載の中で、横須賀だったらこういうところがあるとか、こういうところが地図の記載にあるような場所ですよ、みたいな説明はできるのでしょうか。そういったような教育ができるかどうかはいかがですか。

(社会担当指導主事)

横須賀がというところで言いますと、もちろん関東地区ですとかそういったところの地図や資料、データももちろん載っておりますけれども、実際の授業の中では、横須賀という形にするのであれば、むしろ教育委員会の発行している副読本の郷土横須賀のほうに、より横須賀の地理に関する資料、データは記載されていますので、授業では恐らくそちらのほうを活用する形になると思います。

(元木委員)

地図に、身近な情報を付加しながら教育、授業を行っていくという形ですね。分かりました。

(新倉教育長)

質問ないようですので討論に入りますが、何かご意見ございますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、地図の教科書に関する審議を終了して、採択候補

を決定したいと思います。

中学校地図につきましては、『帝国書院』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ありませんようですので、『帝国書院』を採択候補として決定をいたします。

(新倉教育長)

続きまして、数学の教科書について採択候補の決定を行いたいと思います。  
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校数学は、発行者7者のうち、東京書籍と新興出版社啓林館の2者を答申いたします。

東京書籍は、特に單元ごとの学びの系統性を活用し、既習事項を活用して課題が解決されるよう工夫されていました。

新興出版社啓林館は、「自分から学ぼう」編を活用することで、学びに向かう力・人間性等を涵養するための配慮が見られました。

2者とも、資質・能力の3つのバランスがよく育成されるような配慮が各所に見られました。

2者とも、横須賀の生徒に数学の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、数学については東京書籍と新興出版社啓林館を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

ただいまの説明について、質問ありますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、数学の教科書について、教育指導課長より提案のありました2者の他に、委員の皆様から推薦候補がございましたら、どうぞお願いします。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、数学の教科書についての候補本に関してのご質問に入らせていただきます。ご質問があれば、どうぞ。

(荒川委員)

では、私から2点、質問させていただきます。

まず1点目ですけれども、採択資料15ページ(イ)の観点で、東京書籍は活字が見やすく、図や絵、写真にも工夫が見られるとあり、啓林館では配色がやや見づらいとありますけれども、これは両者ともに全ページでそのような傾向が見られるということなののでしょうか。

2つ目ですけれども、自ら学習を進めるという視点で両者を比べたときに、よさも書いてあったのですけれども、両者の違いやよさについて、少し具体的に教えていただけるとありがたいなというふうに思います。

(数学担当指導主事)

2つについて回答させていただきます。まず、(イ)についての部分ですが、見やすさという点で比較をすると、東京書籍についてはすっきりしており、余白も十分取られているという印象を受けます。また、図や絵、写真も効果的に配置されていると感じております。

啓林館については、多くの色を使用しているために若干にぎやかな印象にはなるのかなと思っております。特に、章の導入であったり章末問題などのページに見られる色で縁取りされたページについては、温かい印象は受けるのですが、他者のものと比較して若干見づらいというような意見が調査部会のメンバーの中から複数聞かれました。ただし、記載しておりますとおり、啓林館のも

のにつきましても優れていると判断できる点が多くありましたので、候補の一点として挙げさせていただいております。

2点目の、自ら学習を進めるという視点の部分ですけれども、東京書籍については、目次の、前の学習という欄に、関連する以前学習した単元が示されております。また、本文中でも、ちょっと確認で以前の学習を振り返ることができます。また、本文中の演習問題のうち巻末に補充の問題があるものについては、その番号が記載されています。さらに、節の終わりに設定された基本の問題では、どのページで学習した内容を確認すればよいか明記されています。なので、生徒自ら学習を進める際にはこれらを活用することができるかと思っております。

また、啓林館については、本文中の演習問題中、巻末の、もっと練習しように関連する問題があるものについては、これも東京書籍と同様に、その番号が記載されております。また、教科書裏表紙のほうから縦開きで構成されている、自分から学ぼう編において、補充的な課題だったり発展的な課題が多く用意されておりますので、こちらを自ら学ぶ際に活用することができるのかなと思っております。

また、先ほど地図の部分でも話題になりましたQRコードから、関連するデジタルコンテンツにアクセスできるようにも両者ともなっております。東京書籍についてはDマークというのが本文に印刷をされておまして、その箇所に関連するデジタルコンテンツに各学年の4ページにあるQRコードからアクセスをすることができるようになっています。また、啓林館については、各章の課題や章末問題にQRコードがそれぞれの部分に印刷をされておまして、そこから関連するデジタルとか解答例にアクセスすることができるようになっています。

(荒川委員)

今ご説明いただいたQRコードのことなのですけれども、両者ともそれが読み取れるということなのですけれども、その中身というのはより発展的なものなのか、それとも振り返りとか復習的なものなのか、QRコードで読み取れる、その中身をもう少し教えていただけるとありがたいと思います。

(数学担当指導主事)

2者に大きな違いはなかったのですが、一つは解答から解説、それと併せて、その関連する動画であったりとか、視覚的に図形領域等で理解を促すようなもの等がそれぞれ、どちらにも載っておりました。

(元木委員)

今の荒川委員からの質問の2つ目についての確認なのですが、自ら学ぶという観点から見た場合に、どちらのほうの方が優れているといえるのでしょうか。

(数学担当指導主事)

どれも優れているな、遜色ないなという気がしましたが、調査部会の中でも話をした中で、啓林館のほうでは別冊のような形で、後ろから、自分から学ぼうというような形で設定されているので、これが発展的なものや補足的なもの、プラスアルファのものになるので、教師が授業をする場合においても、生徒が自ら学ぶ場合においても、これをどう使いこなすかというのは少し難しいかもしれないな、もちろん、自ら学び挑戦する力等を授業の中でつけていながら、そちらのほうも活用できる子どもにぜひ育てたいところではあるのですが、いろいろな経験を持った、教員の年齢層も幅広いですので、そう考えたときには、教科書の本文の中で学びが完結することができる東京書籍のほうか、どちらかというと、自ら学ぶことがしやすいのかなという判断をいたしております。

(川邊委員)

啓林館のほうで、数学と社会とのつながりを意識した題材とあるのですけれども、確かに数だけではなくて社会との関わりが勉強できるというのは非常に大事なことだと思うのですけれども、具体的にどんな題材なのでしょう。

(数学担当指導主事)

啓林館においては、途中の数学ライブラリーといわれるコラムであったりとか、巻末の、学びを生かそうにおいて、各単元で学習したことを社会とつなぐ配慮が見られます。例えば1年生のものとすと、43ページのほうで琵琶湖の水位について、正負の数と絡めて、社会とつながる場面に配慮しております。それから、自分から学ぼう、後ろから開くページの中では27ページ、同じ正負の数の部分になりますが、何時に電話しようかな、こちらは時差のほうを正負の数を使って考えるというところで、正負の数を社会の事象とつなぐような例が見られます。

(川邊委員)

今のようなものは東京書籍にはないということですか。

(数学担当指導主事)

東京書籍についても、社会と結びつけるような配慮は各所で見られます。

(元木委員)

数学の場合、どうしても各単元が独立しているわけではなくて、1年生で学んだことを使って2年生でさらに発展して、3年生はさらに発展するという形になると思います。そういった科目の場合、どうしても途中でついていけなくなる生徒が出てくると思うのです。そういった場合に、例えば数学を好きになるような、もしくは興味を持ってもらうような記述や工夫点の観点ではどちらのほうが優れているのでしょうか。

(数学担当指導主事)

そういった部分で言うと、大きな違いはないかとは思いますが、ただ、東京書籍については、ちょっと確認であったりとか、前の学習ということで、関連を明らかに結びつけるような記述がありますので、つまずきについて対応しやすいのはそちらのほうかと判断をしております。

(元木委員)

確認ですが、東京書籍のほうが振り返りしやすいということですね。

(数学担当指導主事)

はい、そういうことです。

(荒川委員)

今の元木委員の御発言にも少し関係あるのですけれども、両者とも小学校の算数を振り返って、それを新たに中学校の数学につなげるような、そのつながりの部分では両者の違いというのはあるのでしょうか。

(数学担当指導主事)

特に大きな違いはないかと思っております。ただ、先ほど来申し上げている小学校とのつながりについても、東京書籍については割と明らかに、ここと関連をしています、みたいな明示の仕方がされているところが違いなのかなというふうに思っております。

(新倉教育長)

私から、15ページの(ウ)のところに、東京書籍に関して全国学力学習状況調査の結果を踏まえという文言を使っているのだけけれども、これが具体的にどういうところに表れているのですか。

(数学担当指導主事)

例えば、全学年の全国学力学習状況調査において正答率が最も低かったのが関数領域になっておりますが、特に課題が見られるということでは、事象に即してグラフを解釈することであったり、事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明することに課題があるということを報告されています。

東京書籍の2年生の83ページ以降の部分なのですが、具体的な事象、この場合にはペットボトル飲料が10度以下に保てる時間を予想しようという課題ですけれども、こちらの中で、どのような方法で解決をすればよいのかという見通しを持たせて解決させる流れになっております。83ページですと、ちょうど右側に、問題をつかむ、見通しを立てる、自分で考えてみよう、友だちの考えを知ろう、問題を解決する、話し合ってみよう、ふり返る、を深めるということ、このような形で考えを深めさせるような工夫が見られます。

(新倉教育長)

それが16ページでいっている、解き方のみの例ではなく考えさせるようにしてあるところがよい、というところに結びついているということでしょうか。

(数学担当指導主事)

はい。

(元木委員)

数学の場合、習熟度のレベルに差が開きやすい科目だと思っておりますが、そういった差が開いている状態の教室の授業でこの教科書を活用する場合、工夫しやすい点については、いかがでしょうか。

(数学担当指導主事)

教科書を比べたときに、どちらのほう差が開いているところに対応しやすいかというのは、少し難しい部分があるのですけれども、やはり各授業者の中で、そういった生徒に対して個別の配慮ができたりとかというのは、こちらからも注意をしながら対応していくところなのかなというふうに思っております。特にこの2者、あるいは他の教科書について、そういった部分で直接的な配慮ができるということは、少し難しいのかなと思っております。

(新倉教育長)

質問ないようですので、討論に入らせていただきますが、何かご意見ござい

ますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、数学の教科書に関する審議を終了いたしまして、採択候補を決定したいと思います。

『東京書籍』・『新興出版社啓林館』で投票をお願いいたします。

事務局が投票用紙を配付、各委員記入、事務局が回収して結果発表

(事務局)

『東京書籍』 4票、『新興出版社啓林館』 0票です。

(新倉教育長)

投票の結果、中学校数学については、総数で『東京書籍』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

続きまして、理科の教科書についての採択候補の決定に入らせていただきます。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校理科は、発行者5者のうち東京書籍と新興出版社啓林館の2者を答申いたします。

東京書籍は、授業展開や各単元の流れが明確になっており、自然の事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につけるための工夫が大変効果的でございます。生徒の気づき、課題、仮説、実験観察の計画から結果、そのまとめといった一連の流れが統一しており、生徒が見ても、教師が見ても、学習が見通せる点が特に優れております。

新興出版社啓林館は、写真や図が大きく、とても見やすくなっております。日常生活との関わりを示す内容が多く記載されており、理科の有用性を実感できる構成となっております。実験の流れが分かりやすく記載されております。

2者とも、横須賀の生徒に理科の力を育成するためにふさわしい教科書と判

断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いいたします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、理科については東京書籍と新興出版社啓林館を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

ただいまの説明について、質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

理科の教科書については、教育指導課長から提案のありました2者の他に、委員の皆さんから採択候補として審議したい教科書があれば、お願いをいたします。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、理科の教科書についての質問に入らせていただきます。ただいま候補になりました2者につきまして、ご質問があればお願いをいたします。

(元木委員)

理科の場合、実験とかで実際に見てもらうことが一番理解を深めることになるかと思いますが、もしそれができないような状況、昨今のような状況になった場合でも分かりやすく、理解しやすいほうの教科書はどちらになりましょうか。

(理科担当指導主事)

今のご質問にお答えいたします。実験の見やすさといったところで、調査部会で話された視点ではなかったのですけれども、このような状況の中で子ども

たちがより使いやすいというふうな点で考えますと、東京書籍につきましては、単元の実験までの流れがとても分かりやすいというような利点がございます。子どもたちの考える思考にある意味、沿った形での展開が考えられますので、子どもたちがこの教科書を見て学習を進めるということも十分に考えられる。

一方、啓林館につきましては資料がとても充実しておりますので、QRコード等のところで、映像資料であるとか、そういったところで学びを深めることはできるかと思います。

ただ、どちらがその上で優れているかといったところについては、特にその点についての議論はございませんでしたので、それぞれにそういった特徴があるということでございます。

(元木委員)

例えば、GIGAスクール構想でタブレットが導入された場合に、使いやすい教科書はどちらかというのはありますか。

(理科担当指導主事)

そちらにつきましても、まだこの段階でそれがありきの部分ではお話ししていませんでしたが、例えば東京書籍のほうの教科書については、形がスリムのようなものになっておりまして、見開きにしたときに非常に、広げた状態でも、横に何か資料であるとか、それこそタブレット端末、そういった情報機器を置いたとしても、かなり整理した状況になるのではないかと。

啓林館につきましては、先ほどと同様になりますが、QRコードの情報量がかなり充実しておりますので、そちらを見て、実験の内容であるとかそういったものが確認できるというような利点があると考えられます。

(新倉教育長)

今のご質問に対する回答の中で、啓林館のほうがQRコードが充実しているというような回答になっている、そのとおりでよろしいのですか。東京書籍については、手順だとかが教科書のほうに詳しく載っているけれども、逆に言うと、啓林館には手順だとかは載っていないけれども、その分はQRコードで実像で見える、東京書籍にはそれが無いのだという区別があったということではないのですか。

(理科担当指導主事)

まず、QRコードにつきましては東京書籍も啓林館も記載はございます。ただ、資料の多さというところにおいて、啓林館のほうが多いというところ

で、先ほど充実したということをおっしゃっていただきました。

(新倉教育長)

QRコードを使った資料のデータが啓林館のほうが多いという理屈でいいのですか。

(理科担当指導主事)

はい、そういったことでございます。

(新倉教育長)

教科書自体に関するその資料の多さというのは、同じだと見ていいのですか。

(理科担当指導主事)

全体のということによろしいですか。

(新倉教育長)

教科書自体です。

(理科担当指導主事)

教科書自体の資料の多さというところについては、啓林館のほうが多いと。

(新倉教育長)

教科書自体と言っているのは、教科書本体に書いてある文字としての資料と、QRコードとは別です。QRコードのほうが啓林館が多いと、今お話しいただいたのですね。

(理科担当指導主事)

はい。

(新倉教育長)

教科書本体としてはどっちなのですか。

(理科担当指導主事)

教科書本体といたしましても、啓林館のほうが資料は充実しているというような調査結果、調査部会での話になりました。先ほどのもう一点のところとしましての教科書の展開のところでございますが、啓林館のほうもそういった探

究的な学びを意識した記述はございます。ただ、東京書籍と比べたときに、東京書籍については、子どもたちに事象を提示したところから実験までのところが一連の流れになっている。それに対して、啓林館については、実験の流れのところが明確に示されている、そういった違いがございます。

(新倉教育長)

よく分からなかった。今のお話ですと、事象から実験までの一連の流れが東京書籍にあるのだけでも、啓林館はその実験の部分が非常に詳しくなっていますよということでもいいということ。東京書籍の実験の部分というのは、啓林館と比べたら弱いですよということをお話しになっておられる、理解はそれでいいですか。

(理科担当指導主事)

調査部会の中で話されたところとしまして、啓林館の特徴として、実験の内容がかなり細かく記されている、説明がとても細かく記されているということは話としてありました。ただ、子どもが使っていく上で、ではどちらが適切なのかというふうな話になった場合に、東京書籍のほうは、子どもが課題を持って実験に向かうまでがとても分かりやすくスムーズなレイアウトになっているというところで、ポイントが東京書籍のほうの方が分かりやすく展開できるのではないかというようなところで話が出ております。

(新倉教育長)

中学校の理科において、何を教えたいのかを教えてください。だからこの教科書のほうがいいというところでお話しいただかないと分かりません。横須賀の子どもたちに何を教えたいですかという部分。全体を教えるおけばいいという話なのか、その詳細の実験や何かのところでも詳しく自分なりに考えさせていくということをやりたいのかということが見えなくなってくるので、それぞれの教科書のよさというのが、今言った実験の部分が細かいところと、全体の手順だとかが分かりやすいということと、2つあるのは、教える方法としては、手順が書いてあるから、そのほうが子どもたちに伝えやすいよねというのはあるのですが、この本で子どもたちに経験させて何を教えたいのかといったところが、どうメリットの違いが出てくるのかが分かりません。

(理科担当指導主事)

新学習指導要領の中で特に重視されているのは、探究的な学びを理科では重視していくという部分がございます。ここにつきましては、横須賀の理科もも

ちろん同様でございますし、そういったところを授業の中で重視して考えなければいけないという状況にあると思います。そういうふうに考えますと、やはり探究的な学びをどちらが作りやすいのか、探究的な学びによって子どもたちがどんな課題を解決していくのか、この部分が理科ではとても重要な部分になりますので、そういったことから考えますと、東京書籍のように一連の流れが分かりやすい、課題に対してどういった実験をするのかというのが明確になっているというところが利点であるというような話になりました。

(新倉教育長)

文言的な表現でいうと、探究心のほうがということ言えば、より詳しく深くというふうに私は取ってしまうのですが、今のお話は、浅くというか、広くその手法を覚えたほうが探究心が育つというふうに聞こえてしまうので、そこがよく分からないのですが。

(理科担当指導主事)

今おっしゃっていた部分は、話題としては出たのですけれども、例えば実験のところを細かく提示をしたことによって、探究的な学びに果たしてなるのかといったところで、全部細かく指示をしてしまったりとか、多く指示を書きってしまうことによって、子どもたちがそこで考えたり、発言をしたり、展開をしたりするところの、逆にその部分が、既に教科書に書かれていたりする部分が、探究的な学びのところにとって弊害になるのではないかと、そういったところが出ました。逆に、東京書籍については、ポイントとなるところがしっかりと明記されていて、そこに子どものその場面での気づきであるとか、オリジナルの展開ですとか、そういったものがより見られるのではないかと、そういったところで、深まりという意味につきましても、東京書籍のほうが広がりがあるのではないかとこのところで話がありました。

(荒川委員)

今、東京書籍の教科書の探究心の部分で、ポイントを押さえられていてというようなお話も出てきて、説明のところはよく分かったのですけれども、一方で、採択資料の18ページのところに、啓林館のほうで、理科の有用性を実感できる構成という一文がありまして、そこが私はなかなか引かれたところがあるのですけれども、この部分をもう少し説明していただくとありがたいかなというふうに思うのですけれども、お願いいたします。

(理科担当指導主事)

新学習指導要領におきまして、先ほど言いました理解の改定ポイントとして、探究的な学びの充実という部分と、理科が楽しいとか役に立つといった理科の有用性の実感というものが挙げられております。

啓林館の理科の有用性を意識した記述としまして、学びの後に部活ラボというようなコラムがございまして、例えば、その学びが実生活の中でどう生かされているのかといったコラムであるとか、あとは2年生の消化の学びの後にはお料理ラボというものがありまして、どのような消化があるのかといったコラムが掲載されております。また、1年生の蒸留を学ぶところでは、仕事ラボというものがございまして、灯油からガソリンを取り出す方法、そういったところが紹介されているなど、学んだことが実生活でどのように生かされているのかといったところのコラムが大変充実しているといったところで挙げられている部分だというふうに思います。

(荒川委員)

そういった、今の啓林館のよさであったものというのは、東京書籍のほうにはあまり見られなかったということなのではないでしょうか。あるいはまた、同じようなものがあったのでしょうか。

(理科担当指導主事)

東京書籍のほうも、学びの後にそういったコラムという部分は載せられております。2つの出版社の違いといたしまして、東京書籍につきましては、学びを生かして考えようといった項目がございまして、それまでの学習を振り返るような問いが最後に準備されております。その問いを考えることによって、学びを振り返り再認識をしていく、そういった項目がありまして、その部分も実生活につながる一つの要因になるのではないかと、そういった話になりました。

(元木委員)

もう一度確認させてください。理科の教え方というのは2種類あると思うのです。例えば、実験をやってみせて、なぜこうなるのだろうという探究心を探るような形の教え方があると思います。もう一点が、こういった事象があって、その事象について説明してから、では実験で確かめてみようという形の教え方があると思います。この教科書はどちらに向いている教科書でしょうか。

(理科担当指導主事)

今のお答えの部分としましては、その単元であるとか学びの性質によって異

なる部分ではございますが、どちらの教科書も、やはり子どもたちに最初にその事象に興味を持たせるところを大切にしているかなと思います。東京書籍であれば、例えば事象を比較して並べることによって、そこから仮説を出しやすいような提示をされております。一方、啓林館につきましては、ワイドの形の教科書になっておりまして、写真がかなり大きく掲載されております。なので、写真から子どもたちの気づきを出していき、探究的な学びにつなげる、そういった違いがあるかなというふうに感じております。

調査部会のところでは、そういった特徴を受けまして、より探究的な学びにつながるのはどちらかというふうに考えたときに、やはり事象のポイントに絞って提示をしているほうが、より子どもたちの学びが深まるのではないかとこのところ、東京書籍の部分が出ておりました。

(元木委員)

先ほどの数学と同様に、やはり理系の科目というのは、理科離れみたいな形で、とても嫌いになってしまったり、苦手意識を持ってしまう生徒が必ずいるわけです。この教科書を活用することで、理科に興味を持ってくれる、嫌いになった子がまた改めて興味を持ってくれるといった点では、どちらのほうが活用しやすいでしょうか。

(理科担当指導主事)

こちらについては、その点について、どちらもやはり配慮があるというところがございます。やはり子どもたちが興味を持てるような工夫がどちらもされていると。その一つとしまして、生活にかなり近い自然事象を扱っているというような部分がございます。なので、そういった生活にすぐに子どもたちの感覚、帰れるような工夫はどちらの教科書にもされておりました。

(元木委員)

17ページの(オ)のところに、東京書籍のほうはペーパークラフトが附属していたりと、補助教材がついていますが、これ以外に、東京書籍のほうに付属している補助的な教材はあるでしょうか。

(理科担当指導主事)

具体的には、全て巻末にあるのですが、1年生のところでは、世界の活火山の分布が記されているペーパークラフトがございます。こちらで挙げさせていただきまして、先ほどの気象のところについては、こういった形で作ることができます。前線の動きによってどのような雲が発生するかとか、そういったと

ころが見やすいものになっております。3年生としましては、同じように巻末に星座の早見盤がつけられております。こういった点がどちらも有効ではないかというふうな話にはなりました。

(元木委員)

それは、もう片方の啓林館のほうにはないのですか。

(理科担当指導主事)

啓林館のほうではワークシートのような形で、すみません、少し見づらかったらあれですが、仮説であるとか計画を立てるワークシートのようなものが添付されているというような流れでございます。

(元木委員)

啓林館のほうのワークシートを見せてもらったのですけれども、先生方の工夫で同じようなものが作れるような気もしますが、あえてこのワークシートがついている理由とかというのは何かあるのですか。

(理科担当指導主事)

啓林館のほうで、こちらは探究シートというようなシートになっておりまして、やはり探究活動をより意識させるという意味でこちらがつけられているということです。先ほどと同じになりますが、探究的な学びをいかに作るかというところの工夫の一つであると考えます。

(新倉教育長)

私から1点、確認をさせていただきたかったことというのは、プログラミング学習がこれだけ盛んに言われている中において、一番取っかかりやすいというのが理科や何かの授業かなと思っているのですが、プログラミングって単なるICTの部分だけではなくて、様々な授業の中で展開しなければいけないかなと思っているので、そういったときに、今回、東京書籍と啓林館の理科のそれぞれの教科書の中では、それに対してどういうふうに取り組もうというふうに扱われているのですか。

(理科担当指導主事)

主に、あからさまにプログラミングというような記述は、特に理科のほうでは見受けられなかったのですが、調査部会でもそこについての話は出ておりませんが、確認していく中で、啓林館の1年生の46ページにございますが、動物

の分類のところ、アンブラグドではありますが、こういった状況になればこういったふうな動物である、脊椎動物、無脊椎動物の分類のところ、そういったアンブラグドのものが使われていたというものを確認しております。

(新倉教育長)

それは生物学的な発展の話をしているのですよね。

(理科担当指導主事)

はい。

(新倉教育長)

それって別にプログラミングではないですよ。

(理科担当指導主事)

はい、プログラミングではなくても可能なものだと思います。

(新倉教育長)

論理的な思考という意味でのプログラミングの話をしていくと、先ほど言った実験だとかというのが仮説に基づいて行っていくことをやって、それを実現できるかどうかによって初めてプログラミングというか、論理的な思考力をつけるのだよということになってくるのかなと思うのです。

それで、初めるときにお話しした探究心とっているもの自身が、それは論理的思考に基づいていかなければいけないのだろうとっていたので、探究心とってこれまで説明いただいた言葉と私の捉え方が少し違っていたのです。だからこそ、論理的思考というものを身につけさせるためにはどちらの教科書がいいのですかといったときに、実験だとかの細かいところをこういうふうにやっていくところなのだということを示すほうがいいのか、そうではなく幅広くなくて、それは自分で考えるのだよという教科書がいいのかというところが分からなかったのです。先ほど言ったのは、浅いほうが探究心が生まれるということが分からなかったのです。だから、論理的思考という意味でのプログラミング学習を身につけさせるということでは、どちらの教科書はどういうふうなアプローチをしようとしているのかということが分かれば、教えてほしかったのです。

(理科担当指導主事)

先ほどの探究的な学びのところになりますが、例えば実験の部分をより細か

くする、分かりやすくするというのの一つだとは思いますが、ただ、横須賀の現状であるとか、今の理科の状況になったときに、実験をするのだけれども、その実験は何のためにするのか、どういった目的であるのかというのが抜け落ちてしまって、いわゆる実験をすることが目的になってしまうというようなことがすごく懸念されている状況があります。

東京書籍のほうは、その課題、何を目的にするのか、何を探究するのかといったところと実験がすごくスムーズにつながっている。そうすることによって、子どもたちの思考がつながっていくという部分があると思います。啓林館のほうはその部分が、課題と実験のところがリンクしない可能性も出てくるのではないかとこのところが懸念されまして、ですので、先ほど言いましたように、東京書籍は一連の思考としてそれを見ることができる、そのほうが深まるのではないかと。なので、やはり課題が、子どもたちが何を探究しようとしているのか、目的としているのかということが抜け落ちてしまうということが大きな課題となっているふうに捉えておりますので、東京書籍の流れが適切かどうかというふうに考えております。

(新倉教育長)

申し訳ないです、1点、少し違うような話になってしまうので、今の学校現場の先生方は、実験をただやればよいというような話という表現をされてしまうと、教科書の内容をただ教えるだけではなくて、あくまでも教科書というのはその進行においての台本的なものですよね。それをこの台本にしたら今やっている行為が変わるよということを言っていて、何か本末転倒な話をしていないかなと思っています。どうも今までの説明を聞いていると、先生方がどうしたらいいかというふうに教科書を選ぼうとしているようにしか聞こえなくなってしまうので、この教科書を使って何を子どもたちに教えるかという部分の話から違うところへ行ってしまうような気がするのです。

今の状況が、例えば実験だとかをただ単にやっているだけです、みたいな話になるのであれば、それは当然、教育委員会の担当している部局がそうではない形にしていかなければいけないし、教育研究所の研修においても、そうではないのだと是正しなければいけない話の内容で、そうだからこの教科書は合わないのですと言われたら、教科書が何のためにあるかということと論点が違ってきてしまうので、少しそこは不安なのですけれども。部長としてどうですか。

(学校教育部長)

理科の学習の目的というものを考えますと、これは自然事象に対して、どう

してこういう理論があるのかとか、また、どうしてこんな不思議なことが起こるのだろうかといったところから出発をして、それを自分なりに学習しながら突き止めていく、それが理科の探究活動というようなことになっていくということなのです。ですので、指導主事のほうの説明した中では、実験があつて、すぐに実験結果が教科書に出ていてしまって、それで全てが答えが見えてしまうような、そういった流れでは教科書としては困るだろうと。

でも、東京書籍に関しては、なぜだろうというところと、それにどうしてこの実験が必要だといったところは見えていて、そこからまた新たに考えていけるというような流れになっていますよといったところが一番主張したいところであろうというふうに思います。それが啓林館のほうでは少しやりにくいということを調査部会のほうで感じたといったようなことだと思います。ですので、決して子どもたちの探究活動を軽視しているわけではなくて、逆に重視したいがために、この教科書を選びたいというような話をさせていただいているというふうに考えております。

(新倉教育長)

質問がないようでしたら、打ち切らせていただいて、討論に入りたいと思います。何かご意見等ございますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、理科の教科書に関する審議を終了いたしまして、採択候補を決定いたしたいと思います。

『東京書籍』・『新興出版社啓林館』で投票をお願いいたします。

事務局が投票用紙を配付、各委員記入、事務局が回収して結果発表

(事務局)

『東京書籍』3票、『新興出版社啓林館』1票です。

(新倉教育長)

投票の結果、中学校理科については、多数で『東京書籍』を採択候補として決定いたします。

ここで、12時を過ぎましたので、休憩に入らせていただきたいと思います。開始は13時10分からをお願いをさせていただきたいと思います。

午後 0 時04分休憩

午後 1 時10分再開

(新倉教育長)

それでは、午前に引き続きまして、教科書採択に入らせていただきたいと思  
います。

午後はず、音楽（一般）の教科書について採択候補の決定を行います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校音楽（一般）は、発行者 2 者のうち教育芸術社の 1 者を答申いたしま  
す。

教育芸術社は、義務教育 9 年間の系統的な学びが重視され、学年のつながり  
を感じられるような教材・内容が掲載されていて、大変効果的であります。鑑  
賞の題材配列や創作の系統性だけではなく、歌唱の教材の音域や難易度が生徒  
の発達段階を考慮したものになっているところも特に優れております。また、  
多くの資料が掲載されており、その内容も興味を引きやすく、学習において生  
活や社会との繋がりを感じられるようになっている点が大変使いやすくなって  
おります。

横須賀の生徒に音楽の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここ  
に答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答  
申を踏まえ、音楽（一般）については、教育芸術社を採択候補として提案いた  
します。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明について、  
ご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

今、音楽（一般）の教科書について教育指導課長から提案がありました1者の他に、委員の皆さんの中で採択候補として審議したい教科書はございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、音楽（一般）の教科書について、質問に入らせていただきます。この候補本に関しましてご質問がある方はどうぞ。

(荒川委員)

では、私のほうから2点質問させていただきます。

まず1点目ですけれども、採択資料19ページ（イ）の観点では、伝統音楽の扱いや演奏者の言葉など、資料が大変充実しているとあります。一方で（ウ）の観点では、情報量が多く、思考を働かせづらいつとも記述があります。この点で、事務部会や調査部会で何か話題になったことがありましたら教えてください。

もう一点ですけれども、同じく19ページ（カ）の観点で、URLから関連映像や資料を閲覧できるようになっている点が工夫されているとあります。これは教育芸術社だけの特徴なのかどうか、それを教えていただければと思います。

(音楽担当指導主事)

1点目の質問についてお答えいたします。教育芸術社の教科書について、各学校から出てきた調査評価表や調査部会では、資料が充実していて、読み物や資料として大変学習に役立つ反面、少し丁寧過ぎるのではないかという意見がありました。調査部会でも話題に挙がったのですが、1年生の48ページに魔王の記載がございます。その魔王で説明します。ここでは旋律と旋律の関わりを学習する題材なのですが、楽譜がたくさん掲載されているので旋律の流れが追いやすいという利点があります。しかし、気づいてほしい旋律の繰り返しのところには既にラインが引いてあり、自分で旋律の繰り返しに気づくという大切な思考する場面がなくなってしまっています。調査部会ではこのような点を、思考が働かせづらいつと判断いたしました。

次に、2点目の質問についてお答えいたします。QRコードを読み込み、インターネット上に存在する情報資源の場所、アドレスであるURLを表示させる点は2者とも同じですが、含まれる内容は少し違います。教育芸術社のご質問のとおり、画像や資料を見ることができ、資料集や家庭学習として活用できます。教育出版は音源の試聴やワークシートの利用ができ、授業の補助や家庭学習として活用できます。

(元木委員)

第2回の採択検討委員会の議事録についてですが、19ページの上のほうにあります、義務教育9年間の系統的な学びが重視され、というような文言がございます。こちらについて詳しく説明いただけますでしょうか。

もう一つ、教育芸術社はそういった特徴があると思うのですが、もう一者の教育出版のほうではどのような特徴があるか、教えてください。

(音楽担当指導主事)

まず1点目の9年間の学びというところですが、各教科書会社とも、小学校で一度習った曲がもう一回中学校で出てくる構成になっております。1回目の小学校で出てきたときには、小学校の発達段階に合わせて、斉唱だったり、部分的に二部合唱であったりするものが、中学校になると二部合唱になったり、男声が入って三部合唱になったりと、発達段階に合わせて曲の扱いがどんどん変わっていているところが系統的に学習が進められているところだというふうに理解しました。

2つ目の、教育出版の特徴ですが、教育出版は教科書の、1年生でいうと4ページ、5ページの辺りに学びのユニットというものがあるのですけれども、この学びのユニットによって、学びの手がかりとなるヒントや比較曲が明記されている点、それから、学びの手がかりとして共通事項が明確に示されている点、この円の周りに書いてあるのが共通事項なのですけれども、これが明確に示されている点、それから、学び合う活動が展開できるように、他のページなのですが、書き込み欄が設けられていたりする点が大変活用しやすいというふうに考えました。

(川邊委員)

選択資料のほうの20ページですけれども、特別支援教育という言葉が入っているのですけれども、これは何かそういった対象としての特別な何かがあるのでしょうか。

もう一つ、これを読むと、何か全て音楽の勉強という形なののですけれども、

何かこの音楽を楽しむというようなあれば、この教科書の中には入っていないのでしょうか。

(音楽担当指導主事)

申し訳ありません、1点目のところの20ページというのがどこのことかが分からなかったなので、もう一度お願いいたします。

(川邊委員)

選択資料のほうの20ページで、特別支援教育という言葉が入っているのですが、一般校でこれを入れるということですか。

(新倉教育長)

特別支援教育やユニバーサルデザインの観点からということですか。

(音楽担当指導主事)

どの生徒にとっても見やすいユニバーサルデザインの取組というところを言っているのではないかと思います。ユニバーサルフォントを使用しておりますが、教育芸術社のほうは全体の9割以上でフォントを使用しています。それから、楽譜の中、見ていただくと分かると思うのですが、楽譜の中の歌詞のところにもユニバーサルフォントを使用しているので、どの子にも見やすいような工夫がされている点、それから、色に関してもかなり工夫がされていて、従前のものよりも見やすいようになっている点が配慮されている点だというふうに考えます。

(音楽担当指導主事)

音楽を楽しむというところですが、音楽を楽しむ、いろいろな音楽に触れるというところが教育芸術社のほうはとても充実しておりますが、二、三年生の下の60ページにポピュラー音楽のジャンルなんていうのがあるのですが、そのように様々な曲についてCDのジャケットを載せて説明があることで、自分がよく聞いている曲はどのジャンルなのだろう、のように、自分の音楽経験と結びつけて考えやすい作りになっています。このあたりからも音楽の楽しさを十分に味わえるのではないかと考えます。

(元木委員)

採択資料19ページの(エ)の部分になりますが、時代に合わせた選曲がされているということですが、もう一者と比べて、どのような特徴があるのかも

少し詳しく教えてください。

(音楽担当指導主事)

どちらの教科書も共通教材というものがあまして、この共通教材7曲に関しては同じです。それ以外の曲については、狙いに合わせて選定されていますが、教育芸術社は昔から歌われている曲の他にも最近の曲、小学校では二部合唱だったものが三部合唱になっている曲など、多種多様な曲がある点が時代に合った選曲になっていると判断しました。

(新倉教育長)

私から1点だけ。19ページの下のところ、特に優れている点の中で、義務教育9年間の系統的な学び、先ほど元木委員からも質問がありましたけれども、音楽の曲を繰り返すというお話は伺ったのですが、もしこの部分が重視されるとすると、小学校と中学校は同じ教育社の教科書を使うというのが望ましいというふうに読めてしまうのですけれども、その辺についてはどういうふうにお考えになったのですか。

(音楽担当指導主事)

音楽には共通教材というものがあまして、そちらの曲、例えばふるさとなんていう曲も、小学校でも中学校でも、それはどちらでも扱うことになっていますので、そういう曲で9年間の学びができるので、同じでなくても9年間の系統的な学びは培えると思います。

(新倉教育長)

ちなみに、小学校の音楽の教科書はどちらを使っているのですか。

(音楽担当指導主事)

教育芸術社になっています。

(新倉教育長)

では、質問を打ち切らせていただいて、討論に入ります。何かご意見ございますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、音楽（一般）の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校音楽（一般）につきましては、『教育芸術社』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ありませんので、『教育芸術社』を採択候補として決定させていただきます。

(新倉教育長)

続きまして、音楽（器楽合奏）の教科書について、採択候補の決定を行います。

教科用図書採択検討委員会の委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校音楽（器楽合奏）は、発行者2者のうち教育芸術社1者を答申いたします。

教育芸術社は、知識量が多く大変充実しております。写真の見やすさ、説明の分かりやすさ、幅広い資料など、よく考えられ工夫されております。段階的に学ぶことができるように、基礎的な教材から発展的に学ぶことができるような教材まで、様々な楽譜が掲載され、分量も適切で大変活用しやすくなっております。

横須賀の生徒に音楽の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、音楽（器楽合奏）については、教育芸術社を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明について、ご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは音楽（器楽合奏）について、指導課長から提案のありました教育芸術社の他に、皆さんからの提案、採択の候補としてありましたらお願いをいたします。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

ないようですので、音楽（器楽合奏）について、教育芸術社についての質問に入らせていただきます。ご質問ある方はどうぞ。

(元木委員)

先ほど、音楽（一般）のほうでは教育芸術社が採択候補になりましたが、こちらと同じ教育芸術社が候補に挙がっているという状況です。一般が教育芸術社だから、こちらの器楽合奏も教育芸術社になっているのかという点と、逆に、教育芸術社でそろえることによつてのメリットがあれば教えてください。

(音楽担当指導主事)

調査部会で話し合いをしたときには、特に一般が教育芸術社だから器楽もそろえなければいけないという話にはなりませんでしたが、今回、教育芸術社を選んだときに、やはり初めにリコーダーなんかは、アルトリコーダーが中学校から始まるのですけれども、小学校ではソプラノリコーダーを中心にやってくるので、そのあたりですごくつまずきがあったりするけれども、そのあたりですごく丁寧に、ソプラノリコーダーの楽譜も載せつつ、アルトリコーダーの使い方も、指使いは違うのですけれども、基本的な奏法は同じなので、同じところと違うところをしっかりと示している点などは、やはり教育芸術社のほうがよいのではないかということで、教育芸術社になりました。特に、別な教科書になったとしても、両方きちんと使えるように、教科書としての構成はなっております。

す。

(元木委員)

採択資料の21ページの(カ)の部分になりますが、先ほど一般にもありましたが、ICTの機器というか、URLから映像を見ることができるという話があったと思うのですが、こちらのほうも同じような内容になっているのでしょうか。

(音楽担当指導主事)

こちらも一般と同じように、教育芸術社も教育出版社も同じように、QRコードを読み込んでURLに飛ぶのは同じです。同じように、やはり教育出版のほうは音源が出てくる仕組みになっておりまして、教育芸術社のほうは、どちらかというとな資料が出てくるという仕組みになっております。

(新倉教育長)

今の元木委員のところで確認をさせていただきたいのですが、QRコードや何かで読んできたときに、資料が出たほうがいいのか、音源が拾えたほうがいいのかというのは、検討部会の中で何か論議はありましたか。

(音楽担当指導主事)

調査部会の中では、ちょうど調査部会が開かれた時期が学校が休校している時期だったので、音源は出たほうがいいのかという意見も出たのですが、そのときにはホームページで、休校のときには休校用に各教科書会社さんが音源を公開してくださっているのがもう分かっていたので、特にQRコードの中から音源が出るのがメリットになるかということ、そこまでのメリットはないねという話になりました。

(川邊委員)

選択資料の21ページですけれども、一番左側に採択の観点とあります。その中の(エ)のところ「A表現」や「B鑑賞」の教材は、となっているのですが、こちらの右側のほうには鑑賞の教材というのが見当たらないのですが、鑑賞はどういったところに入ってきているのでしょうか。

(音楽担当指導主事)

器楽の教科書は、基本は「A表現」の中のものになっております。ただ、この器楽の教科書なのですが、この器楽で、鑑賞で取り扱ったものについて、ま

た表現で取り扱って、さらに音楽的なその曲のよさを深めていくというふうになっています。

(川邊委員)

鑑賞した曲をまた自分たちが演奏して表現するということですか。

(音楽担当指導主事)

そのとおりでございます。

(新倉教育長)

それでは、質問を打ち切らせていただいて、討論に入ります。ご意見等ございますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、音楽（器楽合奏）に関する審議を終了して、採択候補を決定したいと思います。

中学校音楽（器楽合奏）につきましては、『教育芸術社』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、『教育芸術社』を採択候補として決定をいたします。

(新倉教育長)

次に、美術の教科書について採択候補の決定を行いたいと思います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校美術は、発行者3者のうち光村図書出版と日本文教出版の2者を答申いたします。

光村図書出版は、題材の学びの流れが分かりやすく、主体的に取り組めるよ

うな工夫があります。生徒の思いを大切にした制作過程が段階的に示され、発想を広げ、構成を練るための具体的な手だてが分かりやすい。構成されている作品や文章が適切で分かりやすく、生徒が理解しやすいように整理されています。

日本文教出版は、生活や社会に結びついた美術を扱う題材が多く掲載され、身近な題材から鑑賞体験まで美術の学びが積み重ねていく構成となり、大変配慮されております。美術科の学習をイメージしやすく、何を学ぶのか、どのような資質・能力が育成されるのかという視点からも分かりやすく整理されており、大変活用しやすくなっております。表現と鑑賞が学びの目標の文章における工夫や、インデックスによる相互に関連する工夫がされております。生きて働く知識として身につけられるように明確であります。題材ごとに「造形的な視点」表示があり、生徒の思考を促すための工夫がされております。日本文教出版が唯一、3冊の構成になっていることが、そのことによって3年間の学びの系統性がかみやすく、大変活用しやすくなっております。

2者とも、横須賀の生徒に美術の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、美術については、光村図書出版と日本文教出版を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明について、ご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

ただいまご提案いただきました2者の他に、教育委員の皆さんの中で採択候補として審議したい教科書はございませんでしょうか。

(各委員)  
推薦なし

(新倉教育長)

それでは、美術について質問をお伺いいたします。候補本についてのご質問がありましたらよろしくお願いたします。

(荒川委員)

では、私のほうから2点質問させていただきます。

まず1点目ですけれども、採択資料23ページ(イ)の観点で、高精細印刷よる美しさについて評価されています。これは日本文教出版だけの印刷なのかということと、それから(カ)の観点で、充実したQRコンテンツがあり家庭学習にも活用できるとありますが、これも日本文教出版だけのものなのか、お聞きしたいと思います。

2つ目ですけれども、日本文教出版だけが3冊の構成になっているとのことですが、事務部会では光村が評価されていました。このことで、事務部会では日本文教出版の3冊の構成についてどのようなご意見があったのか、お聞きしたいと思います。

(美術担当指導主事)

まず、高精細印刷による美しさですが、これは日本文教出版の印刷の特徴です。他の2者に関しても、カラーユニバーサルデザインの観点、それから紙質など、様々なところでこだわって作られています。そのため、どの教科書にも美しさがあります。この高精細印刷に関しては、QRコンテンツに関するご質問ともつながるのですが、日本文教出版のQRコンテンツの中にはズーム機能によって作品に迫ることができるものがあります。調査部会では、この解像度の高さについて高く評価されました。今後、タブレットを使った授業が現実的になってきたときに、これまで実践しようと思っていた鑑賞活動が行えるかもしれない、そういう期待を込めた意見もありました。QRコードに関しては、3者とも掲載されているのですが、授業での活用や家庭学習での活用という視点で比較すると、日本文教出版のコンテンツが3者の中で最も充実していると評価されたということです。

次に、3冊の構成についてです。事務部会の評価ですが、この3冊構成に関しては賛成の意見と反対の意見と両方ありました。現在使用している教科書が2冊構成なので、これまでどおり2冊にまとめてあったほうが扱いやすいとか、3冊になってくると重量感がある、そういった評価もありました。一方で、調

査部会の報告と同様に、3冊構成になっていることによって3年間の学びが分かりやすく示されていると感じたとか、3冊それぞれの目指すものが分かりやすく示されているのではないかという評価もありました。

(元木委員)

採択資料23ページの(ア)の部分です。最後の文章ですが、学習をイメージしやすく、何を学ぶのか、できるようになるのかという視点から、分かりやすく整理され、大変配慮されているということなのですが、この何を学ぶのかというところをもう少し具体的に説明いただけますでしょうか。

(美術担当指導主事)

日本文教出版の教科書を見てみると、初めに題材名が掲げられています。この近くにはサブタイトルで書かれているものがあり、何を表現するのかというところで、どんなことを考えて表現をするのかということが、まず分かりやすく示されています。ただ作品をつくればいいというものではありません。さらに、その横には学びの目標が3つに分かれて示されています。光村出版のほうにもこの目標が示されてはいるのですが、2つに分かれて示されています。この後3つの資質能力で見ていくというところを捉えると、新学習指導要領に合わせて3つに分かれていたほうが教材研究をしやすいのではないかと、子どもたちに伝えやすいのではないかとというような意見がありました。

(元木委員)

もう一点お願いします。観点として表現と鑑賞がありますが、今回の教科書において、この表現と鑑賞のバランスはいかがでしょうか。

(美術担当指導主事)

今回の教科書、3者あったのですが、それぞれこれまで発行されていたものに比べると、どの教科書もとても整理をされていて、また、インデックスで示されているなど、3者それぞれの工夫が感じられました。そのバランスに関しては大きな差をつけているものではありません。

(新倉教育長)

私から1点だけ。日本文教出版が3冊の構成になっているということは、学年になったときに1冊ずつ配付がされるのですか、3冊がまとめて配付されるのですか。

(美術担当指導主事)

教科書に関しては、1年と2・3年上、2・3年下というような構成になっているので、3年間まとめて1年生のときに配付されるというものではありません。1年生のときに1年生の教科書を、2年生のときに2・3年の上、下と配られるというようなイメージです。

(新倉教育長)

今のおっしゃっている2・3年の上、2・3年の下って、どこで使い分けるのですか。

(美術担当指導主事)

子どもたちの発達の特質から考えたときに、2年生の初めと3年生の終わりでは大きく発達が異なってきますので、基本的には2・3年生の上巻から始まって、その後、下巻に入っていくというのが基本の流れになってきます。そのときに2冊を比較したときに、上巻と下巻で取り扱っている内容だったりとか紹介されている作品に、発達の特性に合っているというような評価がありました。

(新倉教育長)

よく分からないのは、3年間しかないのに、教科書が3冊に分かれているといえば、単純に1年のときに1冊、2年のときに1冊というふうに思うのですが、定義として2年、3年で上と下ということは、2年の段階で2冊使うの、という質問になってしまう。

(美術担当指導主事)

これは、学校の実態だったりとか生徒の実態によって、2冊並行して使われることもありますし、2年生のときに上巻、3年生のときに下巻というふうに分けて使う、そういう使い方もできるということです。それは先生によって、学校によって、使い方は工夫されているというような実態です。

(新倉教育長)

あまり他の教科書ではそういう観念は持ちませんよね。つまり、先ほど来言っている発達の段階とか各学年に応じて与えるべき内容というのと学ばせる内容が決まっているから、単年ごとに教科書がセットされるわけだけれども、今のお話だと、例えば2年生のときに2冊が来ていて、その2冊の途中までやるということもあるのかもしれないし、上の一部を使い、あるいは下の一部を使

うということが並行的に行われると、そういう説明に聞こえるのですけれども、それというのは通常の数学だとか国語とかではあり得ないのだけれども、美術だけが特異な内容というふうに理解すればいいのですか。

(美術担当指導主事)

学習指導要領の中で、学年のまとまりが第1学年、それからもう一つが第2学年及び第3学年となっているので、基本的には教科書の構成が1年のものと2・3年のものというふうに分かれています。そこを、第2学年及び第3学年というところを一つにまとめているのか、より明確にするために上巻、下巻という分け方にしているのかというような構成になっています。

(新倉教育長)

転校のない生徒であったとすれば、当然その発達の段階でいいわけなのですが、今の説明だと、横須賀市内の各学校は2・3年の上と2・3年の下は各学校ごとに自由に使っていていいということになってしまいますよね。そうすると、Aという中学校からBという中学校に転校した2年生以降の子どもたちは、習っていないこと、習ったことが学校間によって差が出てしまうということが生じるのですか。

(美術担当指導主事)

具体的にどの作品をつくったのか、どの作品を観たのかということではなくて、その題材を通してどのような資質・能力が育成されているのかということになるので、そのところは、こちらの学校では取り扱っていて、こちらの学校では取り扱っていないということは起こり得ます。

(新倉教育長)

それは美術だけですか。

(学校教育部長)

美術だけではなくて、実技教科はかなりそういったことが多いです。例えば技術・家庭科などは、もう3年間の中でどういう学び方をするかということは、それぞれの学校や教員が決めて配付していきます。国語は少し違うのですけれども、例えば理科とか数学のように、必ずこういう単元をやっておかなければならないというような考え方ではなくて、例えばこの美術でありますと、表現というところと、それから鑑賞という、その2つの資質・能力をいかに高められたか、どれだけ3年間の中で習得できたかといったところを評価していきま

すから、何かの、必ずこの絵を観なさいとか、何かの絵を描きなさい、何かの彫刻をやりなさいということが決まっているわけではないので、こういった配列をしても、転校しても、その鑑賞の能力と、それから表現の能力が高まっているかどうかは、それぞれの学校で評価ができていくといったことになります。

(新倉教育長)

少し理解ができないのは、それを誰が決めているのですか。教員の教え方次第によって、23の中学校があったら23の教え方がばらばらにあって、ということをお話しているように聞こえるけれども、それでいいということなのですか。

(学校教育部長)

ばらばらということではなくて、決まっている部分については、この学習指導要領の教えるべき内容というところで決められています。ですので、順番については、数学とか理科みたいに系統立てて決まっている教科もあれば、その3年間とか2年間の中で、その中で育ていけばいいというふうに決められている教科というところがあるということです。

(新倉教育長)

教科書がなぜ採択されるかという根本と矛盾しませんか。基本的な教科書の採択の考え方というのは、同一地域においては同じものをやる、これは無償化の話もあるかもしれないのだけれども、一定の教育水準を保とうということが大前提になるから、ですから同じ教科書を採用するのですよということになっています。それは、同じペースで各学年ごとで教育がされているのだという前提から来ていますけれども、美術についてだけこのような教科書の分け方がされているというのは、それはそれで認められていると考えていいのですか。だから、他の音楽や何かは違うのですよね、ということの念押しになるのです。

(学校教育部長)

まず、認められているかどうかということについては、美術では認められています。そして、音楽についても美術と同様に、3年間の中で学び取ればいいというような形になっています。

(新倉教育長)

何をこだわっているかといいますと、今ご提案いただいている日本文教出版だけが3分冊になっていると言っているわけですね。3分冊であるから3年

間の学びとしてしやすいというふうにお話しになっているのは、単純に考えれば1年ごとでやっていくから学びやすいよねと普通には思うわけです。ところが、1冊目の1年目は一緒だけれども、あとの2番目、3番目はいつやろうが構わないのですよというものを分冊している意味が分からないと言っているのです。他の美術は1冊なのですよね。

(美術担当指導主事)

いえ、2冊です。

(新倉教育長)

2冊なら2冊。では、なぜこれを3分冊して、2・3年の上と2・3年の下に分かれているのですか。どこを教えてもいいだとかというのだったら、だったらこれは1冊になっていけばいいだけではないですか。それを3分冊にして、その教科書を選択しようとしている根本の理由をもう一回教えてほしいのです。

(美術担当指導主事)

2冊、上巻下巻で分かれているので、2・3年というふうなまとまりで捉えることもできるのかなというふうに思います。それを上巻と下巻に分けることによって、2・3年の最初のところで学ぶものがより伝わりやすくなり、後半ではこういった取組をしたほうがいいというようなことが、分かれていることによって、より伝わりやすいのではないかというような評価が出ています。

(新倉教育長)

くどういようですけれども、ここに書かれた意味というのは、3年間の学びの系統性がかみやすいというお話があったから、まずはその説明を聞いたのですが、使い方として、2・3年の上であろうと2・3年の下であろうと並行で使うという説明があったから、分からなくなってしまったのです。そうしたら系統立てたものではないではないかということになるのです。2・3年という2年間の間に2冊の教科書を使うけれども、それは2年間の間を1年で区切るのではなく、9か月になるか、あるいは十何か月になるかという使い方があるのですよというなら分かったのですが、2・3年の上を使ったり2・3年の下を同時で使うようなお話があったから、それでは系統になっていませんよねと聞いているのです。それはどこを教えてもいいのだというようなお話になってしまったから、だとすると、2年、3年の子どもたちが転校したときには、前の授業で受けていなかったり、受けたことをもう一回やるような状態になってしまうのではないですかと言っているのです。それは格差を生むのではないです

かと。だから3分冊に分かれているものを選ぶ理由なんて、余計おかしくなりませんか。

(学校教育部長)

系統性ということの意味ではないかと思うのですけれども、美術の場合は中学校1年生は年間45時間です。2年生になると35時間で、3年生も35時間というふうに、1年生よりも10時間少ないのですけれども、そういったことから考えると、まず1年生の45時間を一つのまとまりとして教科書が出来上がっているということは一つ、考えられるかなと思います。そして、2・3年生を合わせると70時間ですので、その中で一つの塊として考えていくということもできるのではないかと。これが2分冊の教科書であれば、1年生の45時間を上巻で使って、2年生、3年生になると、上巻の残りと下巻の、というところに入っていくということが一つ考えられるかなというふうに思うのです。ですので、教科書の使い方については、それほど教員としては困らないと思いますが、教育長がおっしゃっている系統性というのは、最終的には3年間の学びを教員が順序立てて、こういうふうに学ばせていこうという計画を立てて、それで教科書を使っていきますので、これについては本当に、美術についてはどの学年も、表現の能力と、それから鑑賞の能力をどれだけ高めてあげられるか、この2点について授業を行っていくということですから、そこは系統というのは、何か国とか県とか、全体で必ずこの順番でやりなさいというように、数学や、数学も理科もそこまで言っていないのですが、割とはっきりしている教科と、そうではなくて教員の計画に委ねられている教科があるということに理解していただくということになるのかなというふうに思います。

(新倉教育長)

ここで審議をする皆さんが定義している系統性という言葉は全部に一貫して使っていないことを言っているのです。他の今までやってきた9年間の学習がという、系統立ててという言葉はずっとそういうふうに理解しながら検討してきたのに、急にここで使っている系統性は違うのですと言っているのです。それでしたら、ここで採択として使う系統性という言葉を使ったらいけないのではないですか。今それが、3年生の学びの系統性がかみやすい、大変活用したい、だから推薦をとということですよ。でも、ここで使っている系統性はそういう言葉ではありませんと今、否定していることになります。

(学校教育部長)

説明の仕方があまりよくなかったとは思うのですけれども、決して学びの系

統性自体を否定しているわけではなくて、美術は小学校のときは図画工作で始まっていくわけなのですけれども、そこで学んだ技能とか、それから表現の能力や鑑賞の能力を積み上げながら中学校にやってくるという意味では、ずっと系統的に学んでいるというふうに。

(新倉教育長)

ですから2・3年の上と2・3年の下というのは上から先に使うのですよねと念押しなのです。先ほどの説明では、上を使いながら下も使うと言ったので分からなくなってしまったのです。そういうことがあるのですか、ないのですか。確認はそこだけです。

(学校教育部長)

基本的には、上巻、下巻に分かれているものは上、下で使っていくようになると思います。ただ、先ほど指導主事が申しあげましたのは、その途中でも下巻の題材を取り入れられるものがあれば、同時に配られている教科書なので、活用ができるのではないかというような、そういった部分はあると思います。

(新倉教育長)

通常はその教科書というのは単年度ごとに3年間で分かれていたら、無償教科書が提供されるのですが、この教科書については3年間1冊ずつ来るのではなくて、1年目は1年のを使い、2・3年の上、下は2年生のときに一斉に配付されるということなのですか。

(学校教育部長)

そういうふうに使われております。

(新倉教育長)

そうしたときに、系統的学習と言っている意味が分からなくなってしまうと言ったのです。3冊に分かれているから系統的に使えますというのは、単純に私たちが考えると、毎年ごとにあるから系統的になるよねというふうな理解です。それを他のところでずっと説明されてきた。だからこそ、これが3分割である意味で、3冊あって便利だという意味が分からないと言っているのです。

(学校教育部長)

この日本文教出版のものは3冊に分かれています。他の教科書は2冊に分かれているということですので、そうしますと、塊として、この日本文教出版

のほうも、1年生で配られるものを一つ、それから、2・3年生として上、下で配られるものを一つの塊と考えれば、2つに分けられているというふうに考えられると思います。さらに、2・3年生で配られるものが上、下に分かれていると、それは分量的には1冊ずつが少なくなるといったことで、持ち運びにはメリットがあるかなというようなところくらいであって、特に大きな、3冊に分かれているのと2冊に分かれているのとで、大きなメリットの差、デメリットの差というのはそれほどないのではないかというふうに考えます。

(新倉教育長)

最後の確認です。他のものが2冊に分かれているとすると、1年のときに2冊が与えられるのですか。3年間分の2冊が。

(美術担当指導主事)

1年のときには1年の教科書になります。

(新倉教育長)

2分冊に分かれている話をしているのです。

(美術担当指導主事)

2、3年の上、下……

(新倉教育長)

他の教科書の話をしています。これだけは3冊に分かれていると言っていますが、他のところは2分冊だと言っているのです、では、それはいつ配られるのですかという論議を聞いているのです。

(美術担当指導主事)

1年生の教科書は1年生のとき、2・3年生の教科書は2年生のときに配られます。

(新倉教育長)

この美術については、日本文教出版だけが3分冊になっているという主張をされていますので、他の教科書は上、下の2巻に分かれているとかという定義を説明いただいていますので、他の教科書の場合はどうやって配るのですか。

(美術担当指導主事)

他の教科書のときも同様に、1年生のときに1年生の教科書、2・3年生の教科書は2年生のときに配られます。

(新倉教育長)

では、教科書を配ることは同じで、単なる2冊目が分冊になっているというだけなのですか。

(美術担当指導主事)

捉え方としてはそういうふうには捉えることができると思います。

(新倉教育長)

それをもって3年間の学びの系統性が見えやすいと表現しているということですか。

(美術担当指導主事)

上巻と下巻の内容を比べたときに、上巻のほうが2年生に取り組む内容であり、下巻のほうが3年生の後半で取り組むような内容が含まれているので、上巻と下巻を比べたときに、内容が下巻のほうが発達の特徴からすると高いものになっているというような評価を受けています。

(新倉教育長)

でも、それは2分割になっている後半の部分においても、初めから後ろに行くに限ってそのようになるはずなのではないですか。

(美術担当指導主事)

2分冊の教科書に関しても、そういうふうにはなっているのですが、より明確に捉えやすかったりとか、2つに分かれていることによって、題材が豊富になっているというメリットがあります。よりたくさんの情報が入っているというところですか。

(新倉教育長)

その後半の部分で言うと光村図書出版との大きな違いは何ですか、

(美術担当指導主事)

一番の決め手になったところは、同じ題材を比べたときに、どちらが横須賀

の教育課程というか、子どもたちや学校の取組に合っているのかというところが一番のポイントとなっているところです。

(新倉教育長)

それは具体には何ですか。

(美術担当指導主事)

題材で比べると、例えば日本文教出版の上巻の10ページ、11ページ、光村図書の2・3年の40ページのところに同じような題材があるのですが、どちらも躍動感を表現するというような内容になっています。例えばこの2つの題材を捉えたときに、資料のほうにも書いてるのですが、10ページの造形的な視点のところに、静止している彫刻からなぜ動きが感じられるのか考えてみようという投げかけがあります。一方、光村のほうを見てみると、リード文のところに、人の動きをじっくりと観察して、生き生きとした躍動感を表現しようというふうになっています。止まっている彫刻からなぜ動きを感じるのかというところから出発するのと、人の動きをじっくり観察をして、躍動感を表現してみましようというような導入であった場合、横須賀で目指している美術科の授業の中では、なぜ動きが感じられるのかといったところのほうが重く置いて教育が行われているということです。

(新倉教育長)

私が質問していたのは、2分冊と3分冊の話で聞いて、それが横須賀に合っているというふうに理解しましたので、今までの主張でずっと申し上げていることは、3冊の構成になっていて、3年間の学びの系統に合っていますよという話をしていました。それが横須賀に合っているというふうに理解をしていました。内容について、日本文教出版がよかったということを主張されているのでしたら、ここの3分割云々ということは考えなくてよいのですね。

(美術担当指導主事)

もちろん内容のところが一番重視しているところであります。そこに加えて、3分割になっていることによって、より上巻と下巻の違いが分かりやすい教科書であるというふうに調査部会では捉えました。

(新倉教育長)

だからこだわったのです。他の教科書は2分割になっているかもしれない。1年生のときには1冊来て、2年生のときには1冊で来るか2冊で来るかの違

いですよね。それで、2冊に分かれているから系統立てているということはありませんよね。2冊目にだって2年間分が当然、系統立てて書かれているのだから。そうすると、3分割の3冊になっているメリットって何なのですかというのが分からなかったのです。その説明には全然なっていませんから、そこをもう一回教えてください。

(美術担当指導主事)

おっしゃるとおり、2・3年でまとまっているものと、上、下巻で分かれているもので、分かれているから系統性がある、分かれていないから系統性がないということではありません。ただ、捉えたときに、分冊をしていたほうがより明確につかめるのではないかというような意見が調査部会の中ではありましたが、実際、事務部会の声からも、分かれていることによって分かりやすい、捉えやすいというような評価を報告されています。

(新倉教育長)

これは、例えば、保護者の立場から考えたときに、毎年の学年で教科書が出てくるのだとしたら、子どもの管理は毎年1冊ずつやっていけばいいよねという概念がきちんとある。でも、こうやって3分割のうちの、1年のときには1冊来る、他のところは2・3年分として1冊があったとすれば、それは2年から3年、その1冊をずっと確保していけばいいですよね。それが3分冊になっていて、2年生のときに2冊来てしまった。場合によれば1冊は使わないで、翌年使うためにずっと持っていなければいけないこともありますよね。これって子どもや保護者として管理しやすいのですか。

(美術担当指導主事)

配られるのは一学年で配られています。

(新倉教育長)

そういう意味ですか。

確認だけですけれども、だから系統立てているということにはならないということでもいいのですね。

(美術担当指導主事)

はい。より分かりやすいという評価を受けているということです。

(新倉教育長)

同時に使うということもあるのですね、先ほどのこだわりですけれども。

(学校教育部長)

教育長のご質問の系統立てているというところは、どの教科書も同じというふうに捉えていただきたいと思います。使いやすさの点で分冊が評価されているという報告だということです。

(新倉教育長)

3分冊だから使いやすいということではなくて、中身の使いやすさを言っているのですよね。

(学校教育部長)

中身の使いやすさは、そうです、はい。

(元木委員)

同じようなことで、しつこいのですが、今言った系統性の話なのですけれども、私の中の理解では、例えば2・3年の上に入っている作品だったり、取り組む内容というのが、表現や鑑賞の学びの中でレベルの低いものが上のほうに入っていて、それをやっているうちにある程度、表現だったり、鑑賞だったりのレベルが上がっていったときに、さらに発展させたものがこういうものなのですよ、ということで下の作品を見てもらう、といった形で上と下を使うのかと思いました。例えば水彩画を描いてみました、表現してみましたといったときに、そのレベル設定というのが、上ではこういうような形の表現でいいですが、さらにその先を目指したいときに、下の内容を見ることで、こういうふうになればよかったのだな、みたいな気づきがあったりすると思います。そのような使い方をイメージしています。したがって、場合によっては上、下両方とも持ってきてもらうこともあると考えていたのですけれども、そういった考え方でよろしいでしょうか。

(美術担当指導主事)

作品のレベルが高くなっているということよりも、その作品で考えることとか自分自身が表現することが、レベルが上がっているということになります。なので、2冊並行で教科書が準備されるというようなことはあり得ます。

(元木委員)

ということは、やはり同じ題材であったら、その題材で上、下で系統立てて書かれているというような意味合いでいいのですよね。分かりました。

(新倉教育長)

何かご意見等ございますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、美術に関する審議を終了して、採択候補を決定したいと思います。

『光村図書出版』・『日本文教出版』での投票をお願いいたします。

事務局が投票用紙を配付、各委員記入、事務局が回収して結果発表

(事務局)

『光村図書出版』0票、『日本文教出版』4票です。

(新倉教育長)

それでは、投票の結果、中学校美術につきましては総数で『日本文教出版』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

続きまして、保健体育の教科書について採択候補の決定を行いたいと思います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校保健体育は、発行者4者のうち東京書籍と大修館書店の2者を答申いたします。

東京書籍は、デジタルコンテンツ等の資料が充実しており、情報を活用して理解を深めていくことができる点が大変優れております。現代的な諸問題に関する内容についても配慮が見られます。

大修館書店は、身近な内容の記載が多く、様々な課題を自分のこととして捉

え、習得した知識を実生活に生かして考えるなど、主体的に学習に取り組む態度の育成が期待できると考えられます。

2者とも、横須賀の生徒に保健体育の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえて、保健体育については、東京書籍と大修館書店を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明について、ご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

保健体育の教科書につきまして、他に採択候補がありましたら、委員の皆さんにお願いをしたいのですが。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、保健体育の教科書についての候補本に関する質問を受けさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

(川邊委員)

採択資料の一番下のほうで、東京書籍は性の多様性についての記述が優れていると書いてあるのですが、大修館のほうはその性の多様性についてはあまり触れられていないと受け取ってよろしいですか。

(保健体育担当指導主事)

大変申し訳ございません、初めの部分が少し聞き取れなかったのですが。

(川邊委員)

性の多様性のこと。東京書籍は記述が優れていると書いてあるのですけれども、大修館のほうはそれが記されていないので、そのことに関して触れられているのかどうか。

(保健体育担当指導主事)

性の多様性についてですが、東京書籍については44ページに性の多様性という形で具体的に示されておりますが、大修館書店については具体的な内容は示されておられません。

(荒川委員)

では、私のほうから3点質問させていただきます。

1点目は、先ほどの川邊委員のところと重なる部分があるのかもしれないのですが、採択資料の29ページの総合評価では、東京書籍は現代的な諸問題に関する内容についての配慮が見られるとあり、他の観点では、大修館は現代的な諸問題が多く取り上げられているというふうに書いてありましたので、ここでその両者の現代的な問題についての取り上げ方の違いや、特徴的なことをもう一度、すみません、比較してお願いしたいと思います。

それから、2つ目なのですが、やはり採択資料29ページ(イ)の観点で、東京書籍はデジタルコンテンツ等の資料が充実しているとのことなのですが、その情報を活用するという視点で東京書籍と大修館を比較したときに、どのような違いがあるのか、それぞれのよさを教えていただければと思います。

それから、3つ目なのですが、思春期の生徒にとっての保健分野での、生徒自身の健康や安全について、またストレスへの対応などについて、取り上げている内容や特徴について、両者の違い、また、それぞれのよさなどがありましたら教えていただきたいと思います。

よろしくお願いたします。

(保健体育担当指導主事)

まず1点目の、現代的な諸問題に関する内容についての配慮の部分ですが、まず、大修館書店は初めのカラーページで共生社会やSDGsに触れ、これから目指していく社会を示している点や、感染症予防では病原体を多く取り上げ

ている点など、生徒が興味を持ちやすいように、身近に感じる現代的な諸問題に関する資料がたくさん掲載されているところが特徴として挙がりました。しかし、量が多い分、本来理解しなければいけない学習内容が薄まってしまわないかという心配の声もありました。また、大修館書店につきましては、いじめの具体的な内容が扱われている点も特徴として挙がりました。

そして、東京書籍については、資料の量としては大修館書店と比較すると少ないのですが、基本となる知識を理解した上で、章末資料等で発展的な内容として現代的な諸問題と関連づけて考えられるように整理されている点が、配慮されている部分として評価をされていました。また、先ほどの回答と重なってしまう部分なのですが、東京書籍については性の多様性に関する記載があり、やはりここの性の多様性についての扱いは非常に難しい部分なのですが、共生社会や個人差を理解していく中では、やはり生徒から上がってくるということも考えられますので、やはり教科書に記載があることで、どういうことを教えているのか、また、どこまで指導していくのかという部分で共通が図れるという点で評価が高くされていました。

続いて、2点目のデジタルコンテンツについてのお話です。デジタルコンテンツの違いとして、まず東京書籍は学習内容に対応したオリジナルの資料や動画を見ることができます。一方、大修館書店については主に学習内容に関連した関連機関のホームページにつながるという点に大きな違いがあります。

両者の内容を授業に落とし込んで考えると、東京書籍はイラストや写真ではやはりなかなか保健分野の中で伝わりにくい部分がありますので、そういう部分がオリジナルの動画で解説されていたり、また、他教科と関連する資料が掲載されているため、教科書に掲載されている資料と併せて、生徒が必要な情報を選択して、その情報を活用して理解を深めていくという授業の流れにとっても有効ではないかという意見がありました。一方で、大修館書店は関連するホームページの中から幅広く情報を収集するということはできるというよさはあるのですが、やはり関連する適切な情報を見つけ出すというところが、中学校の学習段階では少し難しさを感じているという意見がありました。

最後の3つ目の部分ですけれども、生徒自身の健康や安全、またストレスの対応についてです。まず、生徒自身の健康や安全については、東京書籍が1年の学習内容で、生活習慣と健康の学習で、運動、食事、睡眠の調和の取れた生活を続けることが必要であることを強調している部分が特徴として挙げられます。また、眠りのサイクルや携帯電話等の使用による睡眠の質の低下など、睡眠に関する内容が丁寧に挙げられている点も一つの特徴であります。現在、横須賀市の子どもたちの生活習慣の課題として、朝食の摂取率の低さや睡眠時間の少なさというところが挙がっておりますので、その改善には適切な資料であ

ることが考えられます。

また、ストレスの対応の内容については、大修館書店は、ストレスの受け止め方を考えたり、ストレスを増大させる心の癖を考えたりするなどのストレスの原因に対処する内容が多く取り上げられている特徴があります。また、実技のリラクゼーションの方法も多く紹介されており、自分自身に合った対処法を身につけられるようになることが期待できます。東京書籍は、チェック項目を設けたり事例を示したりすることで、自分自身の課題として受け止めやすいようにする工夫がされているのが特徴として挙がりました。

(元木委員)

今回、保健体育では4者の図書が出ていますが、その中で性の多様性に触れている図書というのは東京書籍だけでしょうか。

(保健体育担当指導主事)

性の多様性については、東京書籍と、あともう一者挙がっておりました。

(元木委員)

もし東京書籍のほうの教科書を採用せずに、大修館の教科書を採用した場合、授業内でこの性の多様性については扱うか、扱わないかというのはあるでしょうか。

(保健体育担当指導主事)

新学習指導要領のパブリックコメントの際に、やはり性の多様性を授業の中で取り扱うかどうかというところの内容が出ておりました。そこでの回答では、やはり保健体育の授業の中だけでは取り扱うのが難しいということの回答になっておりましたので、指導内容としては含まれないという考えになると思うのですが、やはり横須賀市の取組としても、いろいろその辺の部分は取り組んでいるところもありますので、やはり子どもたちに、44ページを見ても、LGBTとか、そのような具体的な内容は書かれていないので、やはり多様であるということは少し理解をしてもらっておく必要があるのではないかとということで、今回、特徴として挙げました。

(新倉教育長)

今の回答で1点だけ確認します。保健体育の中だけでは、ということは、中でもやるのだよという表現だと思うのだけれども、中だけで解決はしないことは十分分かるのだけれども、中だけではできないから、だからやらないのだと

のように導かれているような説明だったのですが、そうなのですか。

(保健体育担当指導主事)

パブリックコメントの回答を見ますと、取り扱わないということで回答されていたと記憶しておるのですけれども。

(元木委員)

東京書籍と大修館の図書を比較した場合、東京書籍のメリットというのは非常に明確で、デジタルコンテンツがあったりとか、いろいろ書いているのですが、なかなか大修館のメリットがあまり目立たないのですけれども、東京書籍よりも大修館のほうが優れている点について具体的に教えていただけますでしょうか。

(保健体育担当指導主事)

やはり大修館の優れている部分は、教科書に掲載されている資料の量だというところが挙げられております。また、資料の内容として、とても子どもたちが興味を示しやすい内容も取り上げられているという点が特徴として挙げられるかと思えます。例えば、24ページですね、スマホ首と疲労というような子どもたちには身近な内容が取り上げられている部分があります。こういう部分については子どもたちも非常に受け止めやすい内容かと思うのですが、このスマホ首の部分だけ指導内容として取り上げてしまうと、本来の学習内容と少し外れてきてしまう部分がありますので、その辺の部分に注意する必要があるということでした。

(元木委員)

今の話だと、やはり大修館はよくないみたいな感じで聞こえてきてしまうのですけれども、そういうわけではないですね。

(保健体育担当指導主事)

はい、話合いの中では、本当にこのどちらもよさがあるって、最終的に1者に決めるかどうかというときにもとても難しさがありました。ただ、やはり授業を進めていくということを考えたときに、資料が多いというところは一つ、メリットなのですけれども、やはり資料が多過ぎても子どもたちの整理できない部分が出てきてしまうのではないかとこのところがありましたので、少し東京書籍のほうがいいのではないかとこのところの話がありました。

(新倉教育長)

では、私のほうから1つだけ。先ほど性の多様性というものが横須賀の教育に必要だよという観点があったときに、検討部会の中で、書いてある今の東京書籍と、それから書いていない大修館の2つに選ばれた。もう一つ、書いてあったものを選ばなかった理由とかというのは、何か大きな差があったのですが、その本では。

(保健体育担当指導主事)

もう1者、掲載されていた会社については、LGBTだとか、かなり具体的な内容が書かれていた部分がありましたので、ですので、指導する上でそこまで具体的なものを出していいのかどうかというところが一つ、審議の柱ということになりまして、協議された中では、やはりLGBTという言葉を出さずに、性の多様であるというところをやはり強調して子どもたちに伝えていくことが必要なのではないかとというところで、話がまとまりました。

(新倉教育長)

これは判断の話だから、私にはよく分かりませんが、先ほどのお答えの中で、やはり性の多様性だとかに触れていかなければいけないのは、横須賀がそういうスタンスがあるよといったときに、横須賀市では既にLGBTという言葉を使って、その届出から全て受けるのだというスタンスがあるのだけれども、先生方はそれを教えるのが難しいのだ、だからその書いてあるものを選ばなかったという説明になってしまうと、何かすごく後ろ向きのように聞こえてしまって、非常に授業の中で捉えてくれるのかという不安が残るのですけれども、少し教科書採択とは違う話になるのだけれども、そこを非常に私は悔やむというか、思ってしまうのだけれども、そこが分からない。

(保健体育担当指導主事)

やはり話を進めていく中で、この辺の難しさというのは先生方も非常に悩む部分としてはありました。ただ、やはり指導内容として考えたときには、取り扱わないということになっている部分もありましたので、やはりその辺の部分で、あまり具体的になり過ぎてしまうと、指導する上で難しいのではないかとということだったので、決して全く取り扱わない、否定的という意味ではなくて、先生方も伝えていかなければいけないという部分はあるのですけれども、やはり難しさがあるというところは非常に悩んでいる部分でしたので、そういうような結果で、東京書籍の性の多様性の取扱いの部分を今回は挙げております。

(新倉教育長)

私の、論点が違ってしまふかもしれないので、今は2つの推薦を受けたところでしか判断ができませんので、他に質問があればどうぞ。

(学校教育部長)

LGBTや性の多様性を避けて通ろうと、そういう考えではなくて、先生方の難しさというのは、やはり目の前にしている子どもの中に、やはり横須賀の場合も実際にいらっしゃるわけなのです。そういった子どもたちが自分のことを開示している場合と、そうではない場合と、様々な状況があるわけです。そういったものを目にしますと、真正面にこれを受け止めて話をしていく難しさを感じているということなのです。ですから、こういったLGBTそのものをしっかり受け止められるような年齢になったときには、こういった言葉を出していくこともできるかもしれないけれども、今はまだ、もっと大つかみの、そういったいろいろな考え方の人がいる、それは性においても同じなのだというようなところで学ばせていきたいと、そういった思いが一つあるということも考えられると思います。

(新倉教育長)

LGBTその他に関しての話というのは別件の話になってしまうかと思えますので、まずここは教科書採択のほうに特化させていただきたいなと思えますので。

(新倉教育長)

他にご意見等ありますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、保健体育の教科書に関する審議は終了させていただいて、採択候補を決定したいと思います。

『東京書籍』・『大修館書店』で投票をお願いできればと思います。

事務局が投票用紙を配付、各委員記入、事務局が回収して結果発表

(事務局)

『東京書籍』4票、『大修館書店』0票です。

(新倉教育長)

投票の結果、中学校保健体育につきましては、総数で『東京書籍』を採択候補として決定いたしました。

(新倉教育長)

続きまして、技術・家庭（技術分野）の教科書について採択候補の決定を行いたいと思います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校技術・家庭（技術分野）は、発行者3者のうち東京書籍と開隆堂出版の2者を答申いたします。

東京書籍は、全体を通して大変見やすく、各題材において既存の理解を深め、問題解決に取り組めるようになっております。

開隆堂出版は、原理・法則を踏まえた課題解決学習に取り組みやすい内容になっております。

2者とも、技術の見方・考え方を働かせるための流れや構成が大変工夫されております。

2者とも、横須賀の生徒に技術・家庭（技術分野）の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、技術・家庭（技術分野）については、東京書籍と開隆堂出版を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明について、ご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

ただいま教育指導課長から提案のありました2者の他に、委員の皆様から採択候補としてご審議したい案件はありますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、技術・家庭（技術分野）の教科書について、これらの候補本に関してのご質問を受けさせていただきたいと思います。ご質問のある方はどうぞ。

(元木委員)

採択資料25ページの（カ）の部分になります。両者とも、ネットワークやプログラミング言語といった将来のG I G Aスクール構想の活用の際に必要な事柄を扱っているかと思えます。そういったG I G Aスクールの活用の観点からこの両者を比較した場合、どちらが優れているといえるでしょうか。説明いただければと思います。

(技術・家庭担当指導主事)

ご質問ありがとうございます。それぞれ、来年度から新しく取り入れられるネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツの題材に関わる部分ということで、両者ともにそれぞれ工夫をされた題材が設定をされています。その中で、多種多様なものが設定されておりますので、調査部会の中ではかなり迷うというか、どれが今度の子どもたちにとって学びやすかったり、よりネットワークを介したコンピューターのコンテンツについての理解を深められるかという視点について協議がされておりました。その協議の中で、やはりネットワーク上のトラブルについて解決していこうとする態度や、技術を理解するとなったときに、題材の一例ではありますけれども、報告様式にも書かせていただいたのですが、開隆堂のほうにはネットワークをこれは使用していないと見受けられるのではないかという題材が入っておりましたので、技術分野の先生方も様々な御専門を持っていらっしゃるので、やはりこういった部分がまだ学習しきれていない先生方もおまして、そういった先生方が誤って扱ってしまった場合には、平等に子どもたちに同じ学びを提供することができないのではないかというような話題は出ておりました。

(荒川委員)

1点、お願いします。採択資料の26ページの事務部会からの報告の中に、東京書籍の評価点として、身の回りから技術を学べ、また地域の特性などを取り入れることができるようになってきているという記述がありました。その地域の特性などを取り入れることができるようになってきているという、その部分について少し詳しく教えていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

(技術・家庭担当指導主事)

ご質問ありがとうございます。事務部会からの報告については、実は具体的な事例は書かれておりませんでした。その中で、こちらのほうで確認をした範囲ですけれども、身近なといったところにおいては、教科書の20ページの中に、学校の机を例に挙げて、どういった材料が使われて、どんな材料に特性があるのかというようなことを示しておりました。また、地域というところにおいては、この近い地域ではないのですけれども、例えば79ページに、熊本城の天守閣の復旧について、生かされている技術の最適化であったり、81ページには、新国立競技場の建築に生かされている技術といったように、日本の中にある、そういった様々な多様になっている技術について触れる場所がございましたので、事務部会からの調査の、地域の特性などを取り入れたというところは、そういったところから感じられたのではないかと推測されます。

(元木委員)

採択資料25ページの(ウ)の部分になります。恐らくこちらは26ページのところのPDCAサイクルの話と同じだと思いますが、課題や振り返り、問題解決のプロセスが記載されており、大変分かりやすいという説明があります。こちらをもう少し具体的に教えていただけますでしょうか。また、その記載されている内容を授業の中でどのように生かしていくのか、教えてください。

(技術・家庭担当指導主事)

ありがとうございます。今の点については、教科書の少しページを追ってご説明をさせていただこうと思います。東京書籍……すみません、今、ページを確認しておりますので、少々お時間をいただけたらと思います。

(新倉教育長)

どうぞ。

(技術・家庭担当指導主事)

失礼いたしました。東京書籍38ページ、まず材料と加工の技術という内容を学ぶところなのですけれども、まずこういったところで、必ず各章の中に、問題を発見し、課題を設定しようという項目が設定されています。この次のページには、問題解決のプロセスということで、まずは、身の回りにどんな問題があって、どのような解決方法があるのだろうかということ子どもたちがまとめるようなページがございます。それをもって、実際に体験的、実践的な活動を取り入れながら、その課題が解決できるかどうかということ子どもたちが授業の中で、実際に自分たちが活動をして実証をしていきます。それを、最終的には、本当にその自分が最初に持った課題が解決できたかどうかということ振り返る、振り返った中には新たな問題が発見される場面もございますので、また新たな問題発見というような形で授業の中では取り入れていけるといように考えております。つまり、この問題解決のプロセスの中で一番大事な、問題を発見し、課題を設定しようというページが明確に設定をされているところが、大変調査部会の中では評価をされているところです。

(川邊委員)

採択資料25ページの(ウ)のところですか。東京書籍は実践的・体験的な活動に取り組みやすく、活用しやすいと、開隆堂のほうは、原理・法則を踏まえた問題解決ということで、まるっきり教科書の作り方の方向性が違うように見えるのですけれども、他の(イ)とかを見てもそんな感じなので、それほど内容が違うものなのではないでしょうか。

(技術・家庭担当指導主事)

ありがとうございます。今のご質問についてですけれども、基本的に新しい学習指導要領の中では、原理・法則というものをまず子どもたちが理解した上で、どういったことができるかというのを考えていくような流れになっています。その原理・法則の扱いが、開隆堂についてはかなり、題材の最初のほうに凝縮して取り上げられているという形になっているので、それをしっかりと押さえた上で、その題材を進めていけるといいます。東京書籍のほうは、ざっと見ると、かなり原理・法則というのは散りばめられているような印象を受けるというような声が調査部会の中ではありました。ですので、そういった基の知識、技能に当たる原理・法則というものをどの場面で理解するかというような大きな違いはありますけれども、大体そのものを活用してといつか、それを理解した上で実践的・体験的な活動に入って、最終的には自分で課題解決ができたかどうかを評価していくというような流れは大筋では変わりはありません。

(新倉教育長)

すみません、私から少し。今おっしゃった、開隆堂の冒頭にある原理・法則というのは、例えばどんなことを原理・法則というふうにいっているのかが分からないのですけれども、例的に何か1つでもあれば、もう一回整理してもらえますか。

(技術・家庭担当指導主事)

原理・法則ということの具体ですけれども、一番最初の材料と加工の技術を学ぶところの原理・法則でいいますと、例えば材料の特性です。木材であったり、金属であったり、プラスチック、それぞれの特性について、例えば組織の成分だったり、圧縮や引っ張りや曲げ等に対する化学的な性質といったようなことが原理・法則となります。また、製作をする上で、組み合わせる部分の厚さや幅だったり、それぞれ組み合わせる部材の構造や切断、切削といったことの加工の特性も含めて原理・法則とまとめている形です。

(新倉教育長)

それが、東京書籍でしたっけ、もう一つのほうにいくと、それが散りばめられているというのは、何かの事例があったところでそれが書かれているということなのですか。

(技術・家庭担当指導主事)

教育長のおっしゃるとおり、書かれている場面が集約されているというよりは、例えば、実施をする場面で、改めてそこに原理・法則、木材の特徴が記されていたりするといったような形で散りばめられているという印象を調査部会のほうで受けたようです。

(新倉教育長)

そうすると、教えない内容として、子どもたちの部分で教えるときには、初めに何かをまとめて、こんなものがあるよと示すよりは、こういう原理があるよと示すよりは、一つ一つの事例を進めながらそこにある原理を習得させたほうが、より子どもたちのためになるよねという判断を部会で等はしたということですか。

(技術・家庭担当指導主事)

教育長のおっしゃるとおり、調査部会の中ではそういった判断において、散

りばめられているほうが子どもにとってはよいだろうという判断をしたということだと思えます。

(新倉教育長)

それでは、質問ないようですので、討論に入らせていただきます。何かご意見ございますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、技術・家庭（技術分野）の教科書に関する審議を終了させていただき、採択候補を決定したいと思います。

『東京書籍』と『開隆堂出版』で投票をお願いいたします。

事務局が投票用紙を配付、各委員記入、事務局が回収して結果発表

(事務局)

『東京書籍』3票、『開隆堂出版』1票です。

(新倉教育長)

投票の結果、中学校技術・家庭（技術分野）につきましては、多数で『東京書籍』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

次に、技術・家庭（家庭分野）の教科書について、採択候補の決定に入らせていただきます。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校技術・家庭（家庭分野）は、発行者3者のうち東京書籍と開隆堂出版の2者を答申いたします。

東京書籍は、「家族・家庭生活」では、高齢者の介助や地域の人との関わりに協働のキーワードがあるため、狙いに沿った学習に向けて大変活用しやすい内容となっております。また、高齢者体験は第1章4節に示され、リンクされている点が大変効果的であると思われます。

開隆堂出版は、調理実習例には「調理方法Q&A」があり、科学的根拠が分かる内容が示されているため、知識・技能の習得を養う点が特に優れており、大変分かりやすいものとなっております。

2者とも、横須賀の生徒に技術・家庭（家庭分野）の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

（新倉教育長）

次に、提案説明をお願いいたします。

（教育指導課長）

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、技術・家庭（家庭分野）については、東京書籍と開隆堂出版を採択候補として提案いたします。

（新倉教育長）

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明について、ご質問はございますでしょうか。

（質問なし）

（新倉教育長）

ただいま教育指導課長から提案がありました2者の他に、委員の皆さんの中で採択候補として審議したい教科書はございますでしょうか。

（各委員）

推薦なし

（新倉教育長）

それでは、技術・家庭（家庭分野）の教科書について、候補本に関してご質問をいただければと思います。

（荒川委員）

では、私のほうから2点、質問させていただきます。

まず1つ目ですけれども、採択資料27ページの（イ）の観点で、東京書籍の「防災・減災手帳」が紹介されています。これは開隆堂との違い、それぞれの特徴を教えてくださいというふうに思います。

2点目ですけれども、同じく27ページで協働というキーワードの有無が取り上げられていました。学習を進めていく上での大きな違いが出てくるのかどうかということを具体的に説明していただけたらと思います。また、持続可能ということも大切なキーワードだと思うのですけれども、両者を比較したときに内容や取り上げられ方などで違いがあれば、教えていただきたいと思います。

(技術・家庭担当指導主事)

ありがとうございます。まず1点目の東京書籍の「防災・減災手帳」と、開隆堂との違いや、それぞれの特徴ということでご質問いただきました。そちらについてお答えいたします。東京書籍の「防災・減災手帳」と同じように、開隆堂の巻末にも、災害から命と生活を守るためにという特集が掲載されています。2者とも家庭分野で学習する衣食住や家族・家庭生活と関連した、災害に対する備えについてまとめられています。併せて、災害発生時の判断と行動についても、どのようにしたらというような詳しい記載があります。大きな違いについては、東京書籍については切り離して小冊子として常に携帯することも可能な点が調査部会の中では大きく挙げられておりました。また、内容については、家庭分野で学習したことがさらに生かされるよう、災害に対して備えることだけではなくて、学んだ衣食住や家族・家庭生活に関連した、災害時に実際に活用できる知識・技能だとか、また家族・家庭内での約束事をまとめられるページなど、中学生としての学びを発揮したり、家族とコミュニケーションを取りながら家庭での役割を果たそうとする態度にもつながるというような内容になっているという点が東京書籍にあるのですが、その部分が調査部会のほうでは大きく評価をされておりました。

また、2点目のご質問において、協働のキーワードの有無ということが挙げられました。協働というキーワードについては、新しい学習指導要領の中に見方・考え方という視点がございしますが、その見方・考え方の視点の一つとなっています。この視点を活用しながら、より学びを深めていくということが新しい学習指導要領では言われておまして、それは全部の教科で全般的にそうなのですけれども、家庭分野においても、そのキーワードがあることで、教師が意識をすることはもちろんですが、学習の主体者である生徒が意識しながら物事を考えていくということがとても重要になってくるというような話が出ておりました。

具体的に、こういったような学習になるのかということなのですけれども、例えば、高齢者についての学習も新しい学習指導要領の中で新たに上げられている内容なのですが、高齢者の方との関わりの中で、介助の方法を理解するというような指導内容があります。その介助の内容自体を子どもたちに体験

的に学ばせて、理解をさせたりできるようになるということは、これまでと同じような授業の流れなのですが、ただ、新しい学習指導要領では、それを何のために学ぶのかというところがより一層重視されておりますので、その何のためにというところに協働というキーワードが合わさってくると、やはりただ単に助ければいいわけではないと、お互いのできることを尊重しながら、できないところをフォローするためにも、その介助の方法を私たちが知っていると、より協働した地域社会になっていくよねという学びにつながるというような流れに活用することができます。

最後に、持続可能という視点というお話をいただきました。両者を比較したときに、内容の取り上げ方などの違いということですが、2者ともに教科書の各内容の最後には、それぞれの内容と関連づけて、内容というのは衣食住であったり、家族・家庭生活であったり、消費生活であったりという内容なのですけれども、そういった内容と関連づけた、持続可能な社会について考えられる題材が準備されております。その中で、開隆堂においては特に、必ずSDGsに触れて、話し合ってみようというコーナーが設けられております。東京書籍については、特に環境の部分ですが、環境に関連した図や写真を多く活用し、子どもたちが具体的にイメージを持って考えられるような工夫もあります。

また、特に持続可能な社会というところでは、消費生活の環境の指導をする内容が家庭分野の中には設定をされているのですけれども、そこでの内容には特に大きな差は見受けられておりません。

(川邊委員)

協働という言葉というか概念が東京書籍だけなのですかけれども、これは別に、必ず知っておかなければならない言葉とか概念というわけではないのですか。他の教科書では出てこないのですか。

(技術・家庭担当指導主事)

ありがとうございます。今ご質問いただいた、協働という概念は全てにおいて知らなければならないのかということなのですかけれども、知識として覚えるというよりは、その協働というキーワードを視点に物事を考えるといったような形になります。このキーワードについては、先ほどもお伝えしたとおり、学習指導要領上に定められている見方・考え方のキーワードの一つにもなっておりますので、どの教科書にも、掲載の仕方は異なりますけれども、必ず入っております。

例えば、開隆堂におきましては、10ページの部分に、言葉は多少違うのです

けれども、家族や地域と関わる力といったような形で記載がされております。また、6ページにおいても、そこも少し言葉が違うのですが、家族や地域の人とのかかわりといったような形でタイトルがありまして、その中に協力や協働という言葉が記載をされています。

(元木委員)

採択資料27ページの(イ)の部分になるのですが、先ほどもありましたが、「防災・減災手帳」のほうが東京書籍のほうについているということで、これ以外のところで、本体のほうにはそういった防災・減災についての記述というのはあるのでしょうか。

(技術・家庭担当指導主事)

ありがとうございます。本文のほうにその記載はあるかというところなのですけれども、先ほどお話ししたとおり、「防災・減災手帳」の中身については、家庭科の中で学ぶ衣食住だったり、家族・家庭や、または消費生活のことだったり、環境のことだったり、いろいろな面が含まれているので、各内容の様々な場面に防災についての視点は書かれてはいるのですが、取りたててこの防災手帳と関連づけて見ましようというような記載は見受けられてはおりません。

(元木委員)

採択資料27ページの(オ)の部分になります。こちらは両方ともPDCAサイクルに沿った実践が紹介されておりますが、この2つの大きな違いというのは何でしょうか。

(技術・家庭担当指導主事)

少々確認をいたしますので、お時間を頂戴してもよろしいですか。

お待たせして申し訳ございません。それぞれ調査した報告様式のページ数のところで確認をいたしますと、まず東京書籍ですけれども、268ページに実際のPDCAサイクルの流れが書かれております。同じように開隆堂で見ますと、268ページにPDCAサイクルの流れが書かれております。調査部会の中では、この点の違いというところについて大きな取り上げ方はされておられませんでしたが、一応、見た目としては1ページに収まっているものと2ページを大きく使って取り上げているものと、というような違いが見受けられます。

(元木委員)

説明ありがとうございます。では、実際に授業の中で扱うときに、どちらの

ほうがやりやすいとかというのはありますか。

(技術・家庭担当指導主事)

ご質問ありがとうございます。実はこの生活の課題と実践の進め方というのは、大きくこのPDCAサイクルに乗せながら授業を行っていくというものなのですけれども、まずは、先ほど技術分野のほうでもお話をしたと思うのですが、題材の設定の部分が大変重要になってきますので、生活の課題を見つけようという部分のある東京書籍のところで、やはり身近な生活の中からどのような形で課題を見つけたらいいのかというヒントが書かれているというのは、大変効果的ではないかなというふうには感じますが、あくまでも、すみません、今、私の主観でお話をいたしましたので、学校の先生方が活用される際にはどちらにも遜色なく使えるのではないかとってはおりますけれども、現在、全国的に同じなのですが、かなり家庭分野専門の指導をする教員が不足しておりまして、家庭分野の教科ではない先生が代わりに許可の免許を頂いて指導しているという現実もございます。そういった先生が同じように、やはり子どもたちに平等な指導をするという上で考えれば、より丁寧なほうが活用しやすいのではないかなというふうには感じております。

(新倉教育長)

質問もないようですので、討論に入らせていただきます。何かご意見ございますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、技術・家庭（家庭分野）の教科書に対する審議を終了して、採択候補を決定したいと思います。

『東京書籍』・『開隆堂出版』で投票をお願いいたします。

事務局が投票用紙を配付、各委員記入、事務局が回収して結果発表

(事務局)

『東京書籍』4票、『開隆堂出版』0票です。

(新倉教育長)

投票の結果、中学校技術・家庭（家庭分野）については、総数につき『東京

書籍』を採択候補として決定いたします。

(新倉委員長)

大変長時間にわたっておりますので、ここで15分ほど休憩を取らせていただいて、25分に再開をさせていただきたいと思います。トイレその他、少し御休憩いただければと思います。

午後 3 時10分休憩

午後 3 時25分再開

(新倉教育長)

それでは、休憩前に引き続きまして、教科書採択に入らせていただきます。次に、英語の教科書についての採択候補の決定を行いたいと思います。教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、よろしく願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校英語は、発行者 6 者のうち東京書籍と開隆堂出版の 2 者を答申いたします。

東京書籍は、時間をかけて段階的に中学校での外国語学習に接続していくという点、小学校で扱った単語が見やすく配置されている点、CAN-DOリストにおいても小中の接続が示されている点が大変配慮されております。また、タイムリーで実生活に繋がる幅広い内容の題材が盛り込まれている点、世界に目を向けて物事を考えていくことが期待できる点、また、教科横断的な学習カリキュラムを設定することのできる点が大変優れております。

開隆堂出版は、使用場面から英語の使い方を想起させるという点が小学校での方法と同じであります。また、日本文化や人権意識に関わる内容の他にも、バランスよくテーマが設定されている点が優れています。

2 者ともに、小学校での学び方の接続についての配慮がなされていることと、SDGs に対応した内容が見られます。

2 者とも、横須賀の生徒に英語の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえて、英語については、東京書籍と開隆堂出版を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明について、ご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、英語の教科書について、教育指導課長から提案のありました2者の他に、委員の皆さんで採択候補として審議したい教科書がございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、英語の教科書について、候補本に関して質問をお受けしたいと思います。

(元木委員)

採択資料31ページの(エ)の部分と、最後の総合評価に関連する部分です。こちら、東京書籍のほうも開隆堂も、小学校との円滑な接続が工夫されているという点があります。下の総合評価のところにつきましては、開隆堂は、使用場面から英語の使い方を想起する点が小学校での方法と同じであるということで、この点を考えますと、小学校から中学校へ行った際に同じ方法のほうとつつきやすいというか、理解しやすいのではないかと思うので、この点については開隆堂のほうの方がやりやすいかと思うのですけれども、その点はいかがでしょう。

(英語担当指導主事)

今の点についてお答え申し上げます。小学校での外国語の学習方法については、こういう場面ではこういう言い方をするのだよ、こういうふうに話すと自

分の好きな食べ物、好きなスポーツが伝えられるよというようなことで、アイライクというのを、アイが主語でライクが動詞でということではなくて、自分のことを相手に伝えるとき、自分の好きなものを伝えるとき使うのだよということで子どもたちに身につけさせるようなことをするのですけれども、学ばせ方をするのですけれども、開隆堂のほうにつきましては、その場面が扉の S c e n e s というところに書かれておりまして、そういう場面を生徒たちに見せて、どういうことを話しているのだろうということ、こういうふうにするのだねという示し方をするのですけれども、東京書籍のほうについては1年生の最初のところで非常に時間をかけて丁寧に、U n i t 0 から U n i t 5 までかけて、時間をかけて丁寧に小学校から中学校につなげていくという配慮がございます。また、今、開隆堂のほうにありました場面シラバスについても、東京書籍についても、プレビューというところですね、こういったところで同様の気づかせ方、気づきを子どもたちに与えることができるので、一概にこの場面シラバスが開隆堂にあるから、こちらが優れているというふうにはいえません。は思っております。

(荒川委員)

では、私からは2点、質問させていただきます。

まず1つ目ですけれども、採択資料31ページの(イ)の観点で、東京書籍ではQRコードによるアニメーション教材、開隆堂ではQRコードに音声データが紹介されています。どちらも大変効果的とのことなのですが、使った感想などと、事務部会や調査部会で話題になったことがありましたら教えてください。

2つ目は、同じく31ページの(オ)の観点で、東京書籍の記述に教科横断的な学習カリキュラムを設定することのできる内容も大変魅力的である、タイムリーな話題が多く、実生活につなげて考えられるとあります。具体的にどのような内容か教えてください。また、開隆堂では、同じ(オ)の観点のところですが、SDGsに対応した題材が3学年を通してバランスよく取り上げられているとの記述がありましたが、具体的にどのような内容なのか教えてください。

よろしく願いいたします。

(英語担当指導主事)

では、まず1つ目の質問についてお答えをいたします。より詳細を比較するために、同じ言語材料を扱う単元のQRコードによる教材を比較いたしました。東京書籍においては、2年生の教科書8ページ、プレビューの上部の絵がアニ

メーションとなって、話されている内容を理解するために大変効果的であるとの調査部会での見解がございました。開隆堂のほうにおいては、同じく2年生の教科書8ページ、Scenes 1、2と比較すると、開隆堂のほうのQRコードによるデータにおいては、絵の人物がアニメーションではなく、口が音声に合わせて動く程度なのです。したがって、絵を見て話されている内容を想像するのと大差ないと、そういう見立てでございました。しかし、教科書では吹き出し内に英語が表記されているのに対し、QRコードのデータでは吹き出し内は空欄となっています。生徒に想像力を働かせるように指導するためには、こちらは効果的であるといえるというふうに意見が出されました。話されていることの内容をつかみやすくする工夫、理解しやすくするよう工夫されているという意味では、東京書籍のほうが優れている、内容を想像することに重きを置きたい場合は開隆堂というふうな見解でございました。事務部会からはQRコードの教材についての見解はございませんでした。

2つ目の質問についてです。東京書籍においては、1年生の教科書122ページ、123ページに国語分野の物語の読み方、2年生では19ページ、47ページに技術・家庭分野の情報技術の進歩や食品表示、3年生においては32ページ、33ページ、理科の食物連鎖や68ページから69ページ、社会（公民）の選挙権を英語で学習するような教科横断的な内容が取り扱われております。また、身近にあるユニバーサルデザイン製品を扱った単元ですとか、防災の必要性和重要性を確認する単元、そういったものがございまして、日常生活と絡めて英語を学習することが期待できるというふうな意見が出されました。

また、SDGsについてですけれども、開隆堂の教科書においては、1年生のProgram 6、ザ・ウェイ・トゥ・スクールでSDGsの4、質の高い教育をみんなに、2年生のProgram 2、リーブ・オンリー・フットプリントでSDGs 15、陸の豊かさを守ろう、3年生のProgram 7、イズ・エーアイ・ア・フレンド・オア・アン・エネミーで、SDGs 9、産業と技術革新の基盤を作ろう等、豊かな教材が盛り込まれているというふうに分析をいたしました。

（荒川委員）

今の2つ目の、東京書籍の教科横断的な学習カリキュラムのところなのですが、けれども、例えば開隆堂とか、他の者については、そういうような内容というのはなかったのでしょうか。

（英語担当指導主事）

お答えいたします。東京書籍については、そういったページがラーニングと

いう特設ページとして設定をされているので、非常に分かりやすく、扱いやすいというような意見が出されました。もちろん開隆堂におかれましても、このページを扱うと、そういった他の教科に関連する内容も扱えますというようなことはございまして、例えば自然科学に目を向ける、生物に関する教材ですとか、そういったところも教材として扱っているのは意見として出されました。東京書籍のほうでP r o g r a mとして扱っているので、深めていきやすいのではないかという意見でございました。

(元木委員)

採択資料31ページの(ウ)と(エ)の部分なのですが、東京書籍のほうで、4技能5領域の言語活動がバランスよく設定されていたりとか、(エ)のところでも4技能5領域の力をバランスよく育成する工夫がされているという記述があります。ここでいう具体的な工夫点を教えていただければと思います。

(英語担当指導主事)

お答えいたします。この教科書の単元の作りが非常に4技能5領域を育成するのにいい流れ、効果的な流れをしているというふうに認識をいたしております。まず、扉絵のところ、どういった内容を扱うのか、S m a l l T a l kや子どもたち同士の会話で、まず興味を引き出して、プレビューのところ、こういった言語材料を扱う、まあそういう言葉は使わないのですけれども、こういった場面でどんなことが話されているのだろうというところで、今回はこういう場面で使えるこういう言い方を勉強するのだと意識をして、そして、S c e n e sというところ、こういったところで内容を把握する読み方、3段階読みというのがこの教科書の特徴でございます。1回目は概要、大意をつかむ読み方、2回目は詳細を押さえる読み方、3回目は、さらに読んだ内容から表現につなげるような読み方をするというようなものでございます。その間に、この単元で扱う言語材料で、ペアでやり取りをしようという活動が入っていたりしています。また、読んだことを相手に伝えるために、書く活動も入ってきまして、さらに、相手に読んだ内容を伝えよう、要約して伝えようというような活動を入れることによって、表現する活動にもつながっていきます。また、単元の終わりにまとめる内容がございまして、そこで自分で聞いたことをまとめて相手に伝えるというようなことにもつなげられるような内容になっておりまして、この一単元を全て単元計画に沿って進めていくことで、4技能5領域がバランスよく育成できるのではないかということで、総合力として非常に優れているという分析をいたしました。

(川邊委員)

この採択資料の中には聞くことに関する記述があまりないと思うのですけれども、その辺はどうなっているのでしょうか。

(英語担当指導主事)

聞くことに関する活動でございますか。

(川邊委員)

はい。

(英語担当指導主事)

確かに記述としては聞くことに特化した分析はないのですけれども、もちろん指導者、教師が教科書に掲載されている本文を読んで聞かせることもできますし、それぞれQRコードによるデータも充実をしておりますので、そちらを使えば簡単にネイティブの発音に触れることができます。また、生徒同士ですね、生徒が話す英語を生徒が聞いて、つまり生徒同士のやり取りをすることによって聞く活動を生み出すということも、この教科書双方とも活動に取り入れやすくなっておりますので、もちろん聞くということも、中心というわけではないのですけれども、聞くことを前提とした学習はある上で、その上で聞くことを話すことにつなげる、聞くことを書くことにつなげる、聞くことを読むことにつなげるというような、そういったふうに考えて分析をいたしました。

(新倉教育長)

関連事項になってしまうのですけれども、英語が教科化されてきました、小学校での教科書と中学校での教科書の連動性については、どういうふうに捉えていけばいいのでしょうか。

(英語担当指導主事)

そちらも調査部会の中では話題にももちろんなりました。小学校においては東京書籍でもなく開隆堂でもない会社を採択しまして、使っているのですけれども、もちろんその会社においてどうなのだろうという話をしたのですけれども、やはり音声面、聞く、話すを重視して学んできた子どもたちが中学校に入って、どういう学びからスタートするとよりスムーズな接続になるのかということを考えてときに、少しその同じ会社の教科書だと不十分なのではないかという全員の総意がございました。そういう意味では、今回挙げました東京書籍については、採択資料にも明記をしましたが、非常にスタートの部分を手厚く、円滑

な接続のためにプログラムを組んでいるというところ、小学校で扱った単語が見やすいというところ、様々な工夫がある、そちらのほうが優れているというような分析をいたしました。

(新倉教育長)

今のお話というのは、少し前半が分からなかったので、小学校から使っている教科書会社の中学版はよくないということを言っているということですか。物足りないというか。

(英語担当指導主事)

よくないという言い方は適切ではないと思うのですが、こちらの2者のほうが優れているというふうに我々は、調査部会等は判断いたしました。

(新倉教育長)

そうすると、その優れているということと、選択資料31ページの(エ)で言っているのだけれども、小学校との円滑な接続、滑らかなと言っているところが、同じ教科書でなくても構わないのだよということを述べているように思うのですけれども、そこをどういうふうに見たのかなというのが分かりません。つまり、普通ですと小学校、中学校と同じ教科書会社はその課程ごとにやってくる、少し先ほどのほうにもあったけれども、段階を経て同じ教科書をずっと使っていけば分かるよね。だから学びの継続性という言葉がずっと使われていたけれども、今回はその学びの継続性である、教科書会社を変えたとしても、今推薦いただいている2者だと何がそれより優れているというふうになるのが、分かれば教えてほしいです。

(英語担当指導主事)

具体的に申し上げますと、小学校で採用している教科書、同じ会社ですけれども、それは文字が非常に最初から多くて、これで中学校の学習をスタートすると抵抗が大きいのではないかというお話がありました。加えて、この東京書籍、開隆堂については、音声面からしっかり、小学校の学び方をしっかり踏まえたスタートを組んでいる、その流れを十分時間をかけて中学校の学習につなげていくという配慮が見られたということがございました。したがって、同じ会社の教科書を使わなくても、小学校からの学びを中学校に接続するというふうな視点で見たときに、こちらの2者のほうが優れている、さらに言いますと、東京書籍のほうが、より配慮がされていて、ここが一番優れているというふうに判断をいたしました。

(新倉教育長)

その意味で、ここで確認したかったのは、前回の教科書改訂のときというのは小学校が想定されていませんから、中学校になって初めて英語を学ぶという教科書が作られていたのですよね。

(英語担当指導主事)

はい。

(新倉教育長)

今回は、前回から改訂したときに、小学校である程度英語課程ができるということになってくるので、レベル的には中学で教わる部分の一部が小学校に行っていると、そういう教科書になっているということでもいいのですか。

(英語担当指導主事)

中学校で学ぶ内容が小学校に移っているということではないというか、小学校で学んだことを改めて中学校でも学び直すという、理論、すなわちアイアムというときには自分のことをいうのだけれども、アイというのは自分のことを指しているというのは小学校では説明はしないですが、中学校では、アイは自分のことであり、ユーは自分としゃべっている相手のことであるというような概念を含めて指導するのですけれども、そういったことで、中学校の内容が小学校に移動しているということではないです。小学校の内容を中学校でもう一度学習することによって、過去に学習した言い方とつなげて、中学校の場ですにつけさせるという意識が強くなるというような認識でおります。

(新倉教育長)

小学校で英語を専科として教えていく、あるいは必修科としていくときに、やる目的というのは、今回、小学校のほうではどういうものになったから、だから、それを受けて中学校の教科書ではこういうことからやればいいのかというふうに変ったのではないかと思っているのです。それにこの教科書が適切に対応しているかどうかということが確認を取りたいのですけれども、そこをもう少し詳しくできないですか。

(英語担当指導主事)

聞く、話すを中心に小学校では英語科、外国語の学習をしてくるのですけれども、もちろん読むと書くも少しずつ五、六年生では始めていきます。中学校

に入って、まず中学校のスタートが読む、書く中心になってきてしまいますと、そこで文法の説明だとか演習問題とかとなってくると、小学校でやってきたことが中学校につながらなくなってしまうので、中学校1年生での学習の初期の部分でも、まず聞く、そして話す、そういったことを中心にやって、小学校との円滑な接続を十分図った上で、さらにそこに、実はという形で文法事項を説明しながら身につけさせていくという配慮があるのが今回選んだ教科書であるというふうに思っております。

(新倉教育長)

過去の教科書だと、初めから文法から入ってきました。今回も文法から入ることは分かるのだけれども、その前段階の小学校でスピーキングとリスニングはやってきました。それをもう一回、リスニング、耳なりで、あるいはしゃべり方で覚えてきたものを文法化する、文字化するということが今回の中学校1年生の教科書の大きな目標だと考えていいですか。

だから、小学校の高学年でやってきたものを、リスニングなり耳なり肌で感じていたものを、きちんとした文法化に行くための前段階、ソフトランディングさせるための部分が今回の教科書の中では重要視されていくと皆さんが考えるから、提供されている教科書の中で一番滑らかに入ってこられるだろうということが、円滑な受領とか滑らかな接続という言葉の部分ではないのかなというふうに思ったのですが、そういう観点で選んだのだということなのかが分かりませんでした。

(英語担当指導主事)

教育長がおっしゃることで間違いありません。それだけで選んだわけではないのですが、非常に重要な要素であるという認識は持っておりました。小学校でしたことを中学校でも、1年生でも、2年生でも、3年生でもと、何回も同じことをやることによって身につけさせていくという学習方法を取るのですが、小学校であのときにしたことが、ここに今、もう一回やることによって、あっ、つながったと、あのとき自分の誕生日を相手に伝えた、この言い方というのは、ここでこうやって理論立てて学ぶことで、あのときのというのはこういう意味だったのだ、こういうふうな文の作りだったのだということを中学校で気づかせる、中学校の学びで初めてそこで理解させるというような意識でいるのですが、そういったことが大事だよということ、一番にそれが達成しやすいのはという視点で議論をいたしました。

(新倉教育長)

だからこそ、小学校で使っていた教科書会社のほうが本来なら継続がうまくいくはずではないのというふうに思うわけです。同じ事業者が考える。でも、そうではないものの2つをご推薦になっていると、その2者は小学校で使っている教科書よりも何が優れているからというところをPRしているのかが。それがないと、何でというふうに思ってしまうのではないかなと思うのです。それが先ほど来、学びの継続性という言葉にずっとこだわっているのだけれども、それを大事にしていると言いながら、そうではないものを今回推薦されてくるというところを明らかにしてほしいなと思っているのです。

(英語担当指導主事)

まず、小学校で使われている教科書、教育出版なのですけれども、その教育出版の教科書も、もちろん全員で議論したのですけれども、例えば1年生の一番最初の単元で出てくる自己紹介をする内容があるのですけれども、クラスメートに英語で自己紹介をするという設定なのです。そこに必然性というのがないという話題になりました。もともとクラスメートであれば、学級開きのときに自己紹介はお互い、日本語でしている。さらにそれに加えて英語で、日本人同士なのに英語でわざわざクラスメート同士で自己紹介をするということの必然性、そういった配慮が少し不足しているよねという話題になりました。そういったところで、今回選んだ2者については、各活動において必然性をしっかり持った学びが進められるのではないかという点が優れているというふうに話し合いました。

加えて、先ほど申し上げましたが、1年生の最初の学習のところで非常に文字が多く扱われていて、小学校からの接続という視点で見たときに、この2者、今回選んだ東京書籍と開隆堂の2者のほうが優れているなという結論に至りました。

(新倉教育長)

1点だけ確認させていただければ。皆さん、教科書を採択、選んでいくというものの第一原則のところ、横須賀の子どもたちの英語教育というのはどういうステップアップをしていくのだということが基本にあるのかなというふうに思うのです。そのときに、小学校での英語教育というのは何に重点を置いていくのだ、中学に入って何を重点にしていくのだというようなステップアップの流れが1つあるかなと思うのだけれども、その辺をどう捉えればいいのか。

漠然とした概念で言えば、小学校の英語というのは、まずは外国語に慣れて

いくということと、それから、それが教科になってくることによって、一番に覚えてほしいのは、スピーキングとリスニングをしっかりとしようよ、まず通常、耳から入っていくことによって子どもたちは言語を覚えるではないかということが重点にある。それに伴う文法だとか活用というのは、小学校のときからやっていったらなかなか慣れないのだから、これまで日本での英語教育の反省点があったのだと思うけれども、だから中学になってから、それを実際の文法の形で確認をしていくという教育をしていくのだというふうに私は思っているのですが、それは違うのでしょうか。

(英語担当指導主事)

教育長のおっしゃっていることで間違いございません。まずは音声による大量のインプットがあって、少しずつ言葉となって自分の気持ち、意見が言えるようになり、会話が少しずつできるようになる、それが一番最初です。そこに少しずつ、今度は文字が入ってきて、文字が書けるようになる、そうしたら今度は、文字が書けるようになったら、単語を書き写してみようかということで、例えばBOOKと書くことによってブックという単語が書けるようになる、あくまでそれは書きなぞるところ、そして見本を書き写すというところが小学校までというふうに示されています。そこを中学に入って、教育長のおっしゃるとおり、音と文字をさらにつなげて、それをさらに深めていく、ブックというのは名詞だということを認識するというような、さらに文法的、言語として言葉を理解していくというのが中学校の外国語、英語学習だというふうに思っております。

(新倉教育長)

なので、今回の中学校の英語の教科書の検定というのは、過去のものから大幅に変わっているわけですね、逆に言えば、それを踏まえたやり方に。

(英語担当指導主事)

はい。

(新倉教育長)

なので、1年生の一番出だしのところというのは、単なる文法や何かから入ってくるのではなく、小学校で習っていただくことの復習から入っていくのだという、教科書自身の考え方が変わっているというふうに捉えていいのですか。

(英語担当指導主事)

はい、結構です。

(新倉教育長)

その上で、今回の推薦を受けてきているというところでは、調書の31ページの(エ)の部分がまずどうかというところが考えられるわけですね。

(英語担当指導主事)

はい、おっしゃるとおりです。

(新倉教育長)

この(エ)を過ぎた後に、3年生になったときに、どちらのほう有效果があるというふうに見るのですか、皆さん。今ここは取っかかりがとか、全体がこうなっているというふうに言っているのだけれども、今、例えば1年生の教科書はこちらのほうがいいよね、でも3年生までのトータル、先ほどの学びの継続ではないけれども、3年間の間の教育でやっていったときに、3年生のレベルとして、この2つの教科書の比較の部分というのが何も書かれていないので、その点ではどんな議論と、どういうふうに考えたのかというのを教えてもらえますか。

(英語担当指導主事)

まず、扱われている題材の幅広さ、教材の種類、話題の豊富さというところで、東京書籍のほうの方が優れているというふうに、それは(オ)にも書かれているとおりののですけれども、さらに単元の、子どもたちに身につけてほしい力、学習の進め方においては、それぞれ教科書の特徴があるのですけれども、明確にこちらのほうがこちらより優れているか、両方とも優れているというふうに、そこについては、こちらにはこちらの教科書のいいところがあり、こちらにはこちらの教科書のいいところがありというふうに意見が出たところではあるのですけれども、全体の教材の豊富さを見たときに、東京書籍というのがございました。さらに、各学年ごとの到達目標が書かれている、各単元ごとの到達目標もありますし、各学年ごとの学習到達目標も示されているというところで、指導者が子どもたちにそれを示した上で、ここにこういうふうに力を身につけるために今、これをやっているのだというのを身につけさせやすいという話が出ました。

さらに、各学年で扱う文法が新学習指導要領では増える、中学校で扱う内容が高校の内容から一部移りまして、増えるのですけれども、その学年ごとの

配列を見たときに、開隆堂の場合には、以前まで3年生で扱っていた現在完了形を2年生で扱っているのですけれども、2年生は未来に関わる表現、比較の表現、そしてゼアイズの構文ですとか、いろいろな要素が既にあるのですけれども、そこに現在完了が入ってくるというのは、非常に負担が大きいのではないかなというような話も出ました。その点、東京書籍については従来どおり3年生で現在完了を扱う、そこに仮定法ということも入ってくるのですけれども、やはり現在完了の文法を認識させるというのは、少し2年生では荷が重いのではないかなというようにもございまして、そういったトータルの総合力で、総合的に考えたときに、東京書籍のほうが優れているという話は出ました。

(新倉教育長)

質問ないようですので、討論に入らせていただきたいと思います。何かご意見ありますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、英語の教科書に対する審議を終了して、採択候補を決定したいと思います。

英語につきましては、『東京書籍』と『開隆堂出版』の、それぞれの名前で投票をお願いいたします。

事務局が投票用紙を配付、各委員記入、事務局が回収して結果発表

(事務局)

『東京書籍』4票、『開隆堂出版』0票です。

(新倉教育長)

それでは、投票の結果、中学校英語につきましては、総数で『東京書籍』を採択候補として決定いたしました。

(新倉教育長)

次に、道徳の教科書について、採択候補の決定を行いたいと思います。教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校道徳は、発行者7者のうち東京書籍と教育出版と学研教育みらいの3

者を答申いたします。

東京書籍は、題材の最後にある「考えよう」が、心を動かした要因について迫るように工夫されています。

教育出版は、現代的課題を取り入れた内容が充実しており、その教材を基に生徒が主体的に考え、深めていく点が大変工夫されています。発問の手だてを通して問題意識を持ち、道徳的価値にきちんと向かうことができる点が特に優れています。

学研教育みらいは、視覚的に見やすく、構成が工夫されており、扱いやすいものとなっております。ワークシートが適切に入っているなど、議論する授業作りのための工夫がされています。内容が多様で、発達段階に合わせた工夫があり、取り組みやすいものとなっております。

3者とも、横須賀の生徒に道徳の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長より説明のありました答申を踏まえ、道徳については東京書籍と教育出版、学研教育みらいを採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明について、ご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

各委員の皆様から他に採択したいという本があれば、お願いをいたしますが。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、道徳の教科書について、これら候補本に関してのご質問をお願い

します。

(荒川委員)

では、私のほうから2点、質問させていただきます。

まず1点目ですけれども、採択資料33ページ、総合評価の教育出版の記述に、現代的課題を取り入れた内容が充実しており、その教材を基に生徒が主体的に考えを深めていく点が大変工夫されているとあります。その現代的課題とは具体的にどのような課題か、また、東京書籍ではその点についてはどうなのかということをお聞きしたいと思います。

2つ目ですけれども、学研につきまして、議事録27ページに調査部員から、話し合おう、振り返ろうというコーナーがあり、効果的な反面、内容理解にとどまってしまい、道徳的価値が深まらないという懸念の声がありました。道徳的価値の深まりについて、東京書籍や教育出版との違いについて事務部会や調査部会から出た意見をお聞きしたいと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。

(道徳担当指導主事)

ご質問ありがとうございます。今ご質問いただいた2点なのですけれども、この2点が調査部会の中で、教科書について議論する中で大きく話題となった2点になります。

まず1点目、現代的課題というところなのですけれども、この記述には2つの意味が含まれています。1つ目は、現代社会における課題、教育出版の教科書においては、例えばバリアフリー、SNS、防災、食品ロス、環境破壊、食料不足などの教材を扱っています。もちろん東京書籍におきましても、そのような現代的課題について扱っていますけれども、数及び内容に関して教育出版の内容が優れているという意見が出ました。

もう一つの意味なのですけれども、これは現代の学校における、あるいは現代の中学生に存在する課題という意味です。ということは、それらは学校が舞台となっている教材ですとか、あるいは主人公が中学生であるといった教材を指すと思うのですけれども、これらの教材は、やはり生徒が身近に感じ、主体的に考えやすいというふうに判断されますけれども、この教材の数につきましても教育出版が多かったということで、このような記述になっております。

続きまして、道徳的価値の深まりというところになりますけれども、こちらは神奈川県の出しているリーフレットですけれども、こちらにも書かれているのですが、道徳科の学習課程におきましては、道徳的諸価値についての理解を基に、というふうに始まっております。ここの道徳的諸価値についての理解と

いうのは、単なる価値理解、例えば、困っている人に親切にすることはいいことだとか、決まりを守らなければいけないとか、そういった価値理解だけではなくて、困っている人に親切にするのは大事だけれども、できないときがあるですとか、そういった人間の弱さにつながる人間理解、あるいは、人によっては同じ行動をしているけれども考え方が違うといった他者理解といった、そこまで踏まえた上で教材と向き合うという側面が含まれています。調査部会の中では、特に中学生という発達段階においては、この人間理解、人間の弱さの部分ですとか、他者理解といったところをしっかりと踏まえることが大切だということでも話し合いました。

学研の、考えを話し合おう、振り返ろうの問いの内容では、その人間理解ですとか他者理解までつながることが難しい場面が考えられるのではないかとという意見が調査部会の中で出ました。

東京書籍の問いにおきましても、実はその懸念がある部分もあったのですけれども、東京書籍はロールプレイングですとか司会の手引、あるいはホワイトボード用の紙ですとか、心の微妙な状態を形にする心情円など、そういったツールを多く準備しておきまして、こちらでその深まりのほうを期待できるというふうに評価しました。

教育出版におきましては、他者よりも問いが多く設定されております。例えば、1年生の103ページを御覧いただいて、最後に「学びの道しるべ」ということで問いが書いてあるのですけれども、その2つ目の問い、正しいと思ったことを行動に移せないことがあるだろうか、それはなぜだろうというふうにあります。これは、まさに人間理解につながっていく、人間の弱さを理解していく上で大事な問いだと思います。ここで授業において共有することで、3つ目の問いですとか、授業全体の中の主発問への生徒の考えを深めることにつながるということが期待できるというふうに調査部会では意見が出ました。

(元木委員)

2点、質問させていただきます。

1点目は、現在採択して使用しているものが今回、候補の中に含まれていません。その理由を具体的に教えてください。

2点目は、先ほどSNSの話が出てきましたが、SNSで誹謗中傷が問題となっています。そういったSNSの誹謗中傷など、インターネットリテラシーの観点から、3者について、どのような特徴があるか教えていただければと思います。

(道徳担当指導主事)

ありがとうございます。まず1点目の現行の教科書についてなのですけれども、こちらの教科書の調査部会の中での捉えとしましては、前回採択したときの理由にもなっている、先ほどお話しさせていただいた人間理解ですとか、他者理解といった深い価値理解につながる問いが非常に充実しているというところの評価は、今回の調査部会でも同じように評価しました。なので、最終的に絞る段階、最後まで現行の教科書は残っていました。

では、どこが調査部会の中で話題になったかといいますと、先ほど教材というお話をさせてもらったのですけれども、現場の声として、少し教材の文章量が多いですとか、少し内容が難しいといったご意見があります。実際に先ほど話の中でも言わせていただいた、学校を題材にしたものとか中学生を主人公にしたものという、いわゆる生徒が自分のこととして捉えやすいような教材の数は、やはり今回の教育出版、東京書籍の2者に比べると実際に少なかったという理由がありまして、最後までずっとその議論はしたのですけれども、今回については教材の部分で、入ってこなかったという状況になります。

もう一つのSNSにつきましては、やはり非常に重要な問題だと思いますので、これについてはどの会社も全ての学年で、つながるような教材を取り上げて扱っております。

(新倉教育長)

私のほうから、先ほど保健体育の教科書でもお話があったけれども、学校の現場として子どもたちが直面する性の多様性だとかLGBTだとかということによって、実は差別が生まれるのではないかとということを非常に懸念しているのですが、今回の道徳、全ての教科書にわたって確認をしたいのですけれども、そういったものを扱った教科書は一冊もなかったのですか。

(道徳担当指導主事)

近いものは存在しました。性の部分で扱うものは存在したのですけれども、実際にLGBTという単語を使ってという教材はありませんでした。

(新倉教育長)

それは今回の選択の基準ともしなかったということですか。

(道徳担当指導主事)

性差別に限らず、例えば外国人労働者に対する差別の部分ですとか、障害者に対する差別という部分では、現代的課題の一つとして議論の中には入ってき

ました。

(新倉教育長)

今回推薦をしている教科書の中では扱っているのですか、扱っていないのですか。

(道徳担当指導主事)

現状、答申の中に残っている3者の中で、取り扱っている会社はあります。ただ、今、どのページでというのがまだ探し切れていないので、返答はできませんが、残ってはいた。

(新倉教育長)

では、推薦の基準としてはそういうものは考慮したのか、しなかったのかというと、それほど重要視はしていなかったということですか。

(道徳担当指導主事)

性差別に限って議論を深めたという場面はありませんでした。

(新倉教育長)

現代的な課題を大変取り入れていると言っているけれども、現代的課題という部分が、今言ってみますと、例えば性差別とかLGBTって私は現代的課題だと思っているのだけれども、ここに書かれている現代的課題には入っていないということなのですね。

(道徳担当指導主事)

確認の段階ではっきりと、例えば食品ロスとかそういった形ではっきりと識別できるものもあれば、先ほどの男女間の違いとかというところで扱っているものをはっきり性差別としてピックアップするかどうかという部分では、非常に曖昧な部分がありましたので、今回について、そのLGBTという形で議論してはいないということです。

(新倉教育長)

現代的課題とは具体的に何なのですか。それを取り入れた内容が充実しているというふうにわざわざ言っていらっしゃるから。

(道徳担当指導主事)

繰り返しにもなってしまうのかもしれないのですが、教材を見ていく中で、これはSNSを教材としているというふうにはっきり判断できるものもあります。

(新倉教育長)

33ページの優れていると判断した理由の一番下のところに、「教育出版では現代的課題を取り入れた内容が充実しており」という判断をしていらっしゃる。だから、ここでいっている現代的課題とは何ですかと聞いたのです。取り入れた内容がたくさんあるとおっしゃっているわけだから、取り入れた内容の現代的課題とは何を判断して、たくさん入っていると話しになっているかを教えてください。

(道徳担当指導主事)

現状の、例えば新聞に取り上げられるような話題になるような課題ですとか、あるいは、繰り返し話の出たSDGsにつながるような課題というふうに捉えております。

(新倉教育長)

新聞に取り上げられる課題って何なのですか。そういった内容が充実していたと判断をされたのだから、具体には何だったのですか、教えてください。

(道徳担当指導主事)

具体的には、教育出版におきましては、バリアフリー、SNS、防災、食品ロス、環境破壊、裁判員制度、ドナーカード、食料不足、歩きスマホといったものが取り上げられました。東京書籍につきましても、ドナーカード、SNS、監視カメラ、防災、歩きスマホ、児童労働、あるいは認知症といった教材がそれに当たるというふうに判断しました。

(新倉教育長)

ドナーカードと道徳とか、認知症と道徳って、どういうふうにつながるのでしょうか。

(道徳担当指導主事)

すみません、今少しページをめくっております。

教育出版のほうでお話しさせていただければと思うのですが、教育出版1年

生の56ページ、教材名が、ごめんね、おばあちゃんという教材がありまして、少しずつ衰えていくおばあちゃんの姿と家族の姿が描かれた教材になります。こちらにつきましては、主として集団や社会との関わりに関することの中の家族愛、家庭生活の充実という内容項目に分類されておりますので、そちらについて子どもが考え、議論していくという形になります。

(新倉教育長)

今言った、認知症がと言ったのは、現代的課題というよりは、もう1970年から高齢社会を迎えると厚労省と国が発表してきて、ずっとあって、2001年にもう社会福祉の基礎構造改革をやらなければいけないと言われた20年も前の話がずっと続いているのです、というふうに認識しているのです。だから、現代的課題と言っているのに、高齢問題でその高齢者がたまたま老人福祉施設に入ったり、年を取ってきたことに対して、孫がおばあちゃんに対してどう思うかというのは、これはもう昔からの話ではないかなと。もっと極端に言えば、年長者をどう敬うかという、その道徳心のほうだと思っているので、それが現代的課題と言われるのがよく分からなかったなと思っているわけです。

そこはもうこだわりません。的確に現代的な課題だというふうに捉えて、学校でそれが教えられるということが、この教科書だったら大丈夫だという自信を持って推薦しているということだけでいいですよというだけです。

(道徳担当指導主事)

はい、そのとおりでございます。

(新倉教育長)

それでは、質問もないようですので、これから討論に入らせていただきます。何かご意見ありますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、道徳の教科書に関する審議を終了させていただき、採択候補を決定したいと思います。

『東京書籍』・『教育出版』・『学研教育みらい』、この3者で投票をお願いいたします。

事務局が投票用紙を配付、各委員記入、事務局が回収して結果発表

(事務局)

『東京書籍』 1 票、『教育出版』 3 票、『学研教育みらい』 0 票です。

(新倉教育長)

投票の結果、中学校道徳につきましては、多数で『教育出版』を採択候補として決定いたしたいと思えます。

以上で、各教科の審議が終了いたしました。

採択候補の確認をいたしますので、しばらくお待ちいただければと思えます。

中学校全教科・種目の採択候補について教育長と事務局が再度確認

(新倉教育長)

確認が終わりましたので、中学校教科書の採択について決を採りたいと思えます。

議案第36号『令和3年度使用中学校教科用図書の採択について』は、国語につきましては三省堂、書写は三省堂、社会（地理的分野）については帝国書院、社会（歴史的分野）については教育出版、社会（公民的分野）については東京書籍を、地図については帝国書院を、数学については東京書籍を、理科につきましても東京書籍を、音楽（一般）は教育芸術社、音楽（器楽合奏）は教育芸術社、美術については日本文教出版、保健体育を東京書籍、技術・家庭（技術分野）については東京書籍、技術・家庭（家庭分野）を東京書籍、英語について東京書籍を、道徳については教育出版の教科書を採択することで賛成の方の挙手をお願いいたします。

採決の結果、議案第36号は「総員挙手」をもって、教育長が読み上げたとおり採択することで可決・確定する。

日程第3 議案第37号『令和3年度使用高等学校教科用図書の採択について』

教育長 議題とすることを宣言

(新倉教育長)

審議に入る前に、教科用図書採択検討委員会委員長より、検討の経過に対する説明を求めたいと思います。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長)

高等学校の教科書採択につきまして、これまでの経緯をご説明いたします。

本日に至るまでに採択検討委員会を2回実施いたしました。第1回は5月22日に開催し、基本方針、調査方法の確認を行いました。そして、調査部会による十分な調査により作成された教科用図書選定理由書に基づき、採択検討委員会専門部会を7月15日に実施し、種目ごとに検討を行いました。

委員会は学識経験者、保護者代表、教育関係者を含め構成され、調査部会による調査結果を慎重に審議し、7月15日の採択検討委員会で答申内容を決定し、本日に至っております。

答申内容については、部会長より報告いたします。

(伊藤教科用図書採択検討委員会高等学校専門部会長)

それでは、続きまして、答申内容について私からご報告をいたします。

本年度は、新しく発行された教科書がないという状況でございます。その中で、全日制課程は643種、定時制課程は495種を調査対象として検討いたしました。新規に選定したものが定時制課程で1者ございます。全日制課程ではありません。

新規に選定したものについてご説明申し上げます。お手元でございます高等学校定時制の72ページの一覧表の定時制課程の37番、工業（環境工学基礎）、これを新規に選定いたしました。その理由ですが、今年度、地球環境化学、これを科目として教育課程に置いておりましたが、地域の身近な環境問題を取り上げ、幅広い内容を基礎・基本から学習する環境工学基礎という科目のほうが生徒にとって、よりふさわしい科目であろうということで、来年度、科目の変更を計画いたしました。それに伴い、新規に選定をいたしました。

これ以外のものにつきましては、現在使用している教科書を継続して選定しております。全体的な傾向といたしましては、全日制課程は、多様なニーズを持っている総合学科の生徒たちに適したものを選んでいきます。一方、定時制につきましては、生徒の実態に応じて理解や定着のしやすいものを選びました。

以上、答申をいたします。よろしく願いいたします。

(新倉教育長)

それでは、議案の説明をお願いします。

(教育指導課長)

議案第37号『令和3年度使用高等学校教科用図書の採択について』ご説明いたします。

高等学校教科用図書については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定に基づき採択するものです。

横須賀市立横須賀総合高等学校では、種目、科目ごとに高等学校教科書目録に記載された検定本、著作本について調査を行い、教科用図書採択検討委員会において検討、審議しました。その結果はお手元にある採択候補案でございます。

よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

(新倉教育長)

高等学校につきましても、教科数の関係から、横須賀総合高等学校の全日制課程及び定時制課程の教科用図書の採択一覧が議案として提出されております。つきましても、審議は全教科一括で行いたいと思います。

なお、委員の皆様の中で採択候補として審議したい教科書がある場合には、その教科について審議及び採決を区分して行いたいと思いますが、委員の皆様、よろしゅうございますでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

それでは審議は一括として、他に採択候補がある場合には、その教科は区分して審議することといたします。

教科用図書採択検討委員会委員長及び部会長、並びに教育指導課長からの説明について、質問がございましたらお願いをいたします。

(質問なし)

(新倉教育長)

では、次に、議案にあります候補本他に、委員の皆様の中で採択候補として審議したい教科用図書というのはございますでしょうか。

(各委員)  
推薦なし

討論なく、採決の結果、議案第37号は「総員挙手」をもって、原案どおり可決・確定する。

#### 日程第4 議案第38号『令和3年度使用特別支援学校及び特別支援学級教科用図書の採択について』

教育長 議題とすることを宣告

(新倉教育長)

審議に入る前に、教科用図書採択検討委員会委員長より検討の経過に対する説明を求めたいと思います。

(小番教科用図書採択検討委員会委員長)

特別支援学校及び特別支援学級の教科書採択につきまして、これまでの経緯の説明をいたします。

本日に至るまでに、採択検討委員会を2回実施いたしました。第1回は5月22日に開催し、基本方針、調査方法の確認を行いました。そして、調査部会による十分な調査により作成された調査評価表に基づき、採択検討委員会専門部会を7月15日に実施し、検討を行いました。特別支援教育については、児童・生徒の実態に応じて選んでいくため、大変多い冊数ではございますが、どの教科も誠実に評価をされておりました。

委員会は学識経験者、保護者代表、教育関係者を含め構成され、調査部会による調査結果を慎重に審議し、7月15日の採択検討委員会で答申内容を決定し、本日に至っております。

答申内容については、部会長より報告をいたします。

(村野教科用図書採択検討委員会特別支援教育専門部会長)

それでは、続きまして、答申内容について私からご報告させていただきます。

特別支援教育におきましては、特別支援学校のろう学校と養護学校、小中学校の特別支援学級があります。これらにつきましては、児童生徒の実態に応じて教科書を選んでいきます。対象となる本は、検定本、文部科学省で定めております著作本、学校教育法附則第9条で規定されている一般図書の中から採択す

ることができます。したがって、対象となる本が大変多いこととなります。

第1回は5月22日に開催し、基本方針、調査方法の確認を行いました。その後の調査作業についてですが、養護学校、ろう学校、小学校、中学校における特別支援学級では、それぞれの調査部員を中心に丹念に調査、評価いたしました。採択検討委員会専門部会を7月15日に実施し、慎重な審議の上、原案を作成いたしました。

内容についてですが、ろう学校（高等部）用検定本38冊、ろう学校用著作本20冊、養護学校用著作本5冊、小学校特別支援学級用著作本8冊、中学校特別支援学級用著作本11冊、ろう学校用附則第9条本11冊、養護学校用附則第9条本125冊、小学校特別支援学級用附則第9条本21冊、中学校特別支援学級用附則第9条本68冊、検定本については小学校、中学校で採択されたものを使用いたします。

以上、答申いたします。

（新倉教育長）

それでは、議案の説明をお願いします。

（教育指導課長）

議案第38号『令和3年度使用特別支援学校及び特別支援学級教科用図書の採択について』ご説明いたします。

この議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条及び同法施行令第15条及び学校教育法附則第9条の規定に基づき採択するものです。

無償措置の対象となる特別支援学校における小・中学部及び特別支援学級にあつては、小・中学校教科用図書、特別支援学校教科用図書目録に記載されている教科書、学校教育法附則第9条の規定による一般図書は給付の対象となります。また、無償給与の対象外の高等部においては、高等学校用教科書目録に記載された教科書を使用することになります。

学校教育法附則第9条の規定による一般図書につきましては、文部科学省初等・中等教育局教科書課長通知を参考にして、児童・生徒の障害の状況に最もふさわしい内容であることや、系統的に編集されていること、使用上適切な体裁であること、高額過ぎない価格であることなどの事項に留意をして採択すること、並びに採択した図書が完全に給付される見込みであることなどに留意して審議することとされております。また、採択された教科用図書については、採択一覧の中から各学校が児童・生徒に合わせて選択し、給与することになります。

以上の点を踏まえ、教科用図書採択検討委員会において検討、審議がなされました結果が、お手元にある採択候補案でございます。また、本日、一部ですが、見本となる一般図書等も用意してあります。

よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

(新倉教育長)

特別支援教育につきましては、児童生徒一人一人の実態に応じて選んでいるため、大変多い冊数でありますので、教科用図書の採択の一覧が議案として提出をされているところです。つきましては、審議は全教科一括で行いたいと思います。

なお、委員の皆様の中で採択候補として審議したい教科用図書がある場合には、その教科について審議及び採決を区分して行いたいと思いますが、皆様いかがでございましょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

それでは、審議は一括とし、他に採択候補がある場合には、その教科は区分して審議することといたします。

教科用図書採択検討委員会委員長及び部会長、並びに教育指導課長からの説明について、質問がありましたらお願いをいたします。

(質問なし)

(新倉教育長)

なお、議案にあります候補本の他に、委員の皆様の中で採択候補として審議したい教科書がございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

討論なく、採決の結果、議案第38号は「総員挙手」をもって、原案どおり可決・確定する。

6 閉会及び散会の時刻

令和2年8月6日（木） 午後4時46分

横須賀市教育委員会

教育長 新 倉 聡